

江東区地域生活に関する調査集計結果概要

(令和4年度障害者実態調査)

【調査項目】

<障害者・障害児>

項目	設問番号		設問
	障害者	障害児	
本人の状況	1	1	年齢
	2	2	障害の状況
	3	3	手帳の種類
		4	発達障害の診断
		5	発達に関する問題に気づいた年齢
	4		回答者
	5	6	世帯の状況
	6		介助・支援の要否
仕事や 学校生活	7	7	通院状況
	8	8	医療的ケアの状況
	9	9	日中の過ごし方
	10		(就労している場合) 困っていること、今後の希望
	11		(家事・育児をしている場合) 困っていること、今後の希望
	12		(通所している場合) 困っていること、今後の希望
社会参加やコミュニ ケーション	13	10	(通学している場合) 困っていること、卒業後の進路
	14		仕事をしていくために必要なこと
	15	11	外出するとき困ること
情報・相談先	16	12	社会参加の支援サービスへの要望
	17	13	休日の過ごし方
	18	14	情報の入手経路
	19	15	困ったときの相談先
サービスの利用	20	16	相談しやすくするために必要なこと
	21	17	情報の取得、意思疎通において必要な施策
	22	18	利用状況
暮らし	23	19	サービスの満足度
	24	20	サービス提供事業者に望むこと
	25	21	居住年数
	26	22	住宅の形態
	27		居住支援に対する望むこと
	28	23	現在の暮らし向き
	29		将来希望する暮らし方
	30		希望する暮らしをするために必要なこと
	24	自立した生活を送るために必要なこと	
	25	図書館サービスの認知度	
	31	26	取り組んでみたい文化芸術活動

項目	設問番号		設問
	障害者	障害児	
災害時の支援	32	27	避難行動要支援者名簿の認知度
	33	28	地域の防災訓練への参加希望の有無
	34	29	災害時の支援に必要なこと
	35	30	災害発生時に困ることや不安なこと
	36	31	災害への備えの状況
障害者施策	37	32	差別解消法の認知度
	38	33	障害者虐待防止センターの認知度
	39	34	差別された経験の有無
	40	35	差別や虐待を防ぐために必要なこと
	41	36	日常生活で配慮されていると思うか
	42	37	3年前と比べて障害者施策は充実したか
	43	38	3年前と比べてて福祉サービスは充実したか
	44	39	障害者施策に満足しているか
障害者スポーツ	45	40	周りの人からしてもらってうれしかったこと
	46	41	取り組んでみたいスポーツ
共生社会の実現	47	42	スポーツ・レクリエーションを行う上で困ること
	48	43	地域との関わり
	49	44	知らない人から手助け、配慮を受けた経験の有無
	50	45	江東区は暮らしやすいか
	51	46	江東区に住み続けたいか
	52	47	共生社会の実現のために大切なこと
	53	48	ヘルプマークの認知度
	54		成年後見制度、日常生活自立支援事業の認知度
	55	49	公園で不便に感じる事
	56	50	幸福度
介護者	57	51	障害者施策への意見・要望
	58		主たる介護者の続柄、年齢、1日の介護時間
	59		差別解消法の認知度
	60		長期間介護できなくなった場合の対応
	61		介護者支援で充実してほしいこと
	62	52	介護者の健康状態
	63	53	介護者の勤務形態
	64	54	介護者の働き方の調整の有無
	65	55	仕事と介護の両立に効果のある勤務先の支援
	66	56	今後も働きながら介護を続けられるか
		57	18歳になったときの希望
	67	58	将来のことで不安に思うこと
68	59	医療的ケアの困りごと、不安に思うこと	

<サービス提供事業所>

項目	設問番号	設問
事業所	1	事業所の経営主体
	2	職員数
	3	指定を受けているサービス
	4	介護保険サービス指定の有無
	5	開業年
サービスの提供	6	サービス利用人数
	7	提供しているサービスの量・提供可能な量
	8	サービスを提供する上での課題
	9	受けている苦情や相談
	10	スタッフの質の向上、人材育成で取り組んでいること
	11	サービスの質の向上で取り組んでいること、取り組みたいこと
	12	支援を拡充したい分野
	13	知識やスキルを拡充したい分野
事業所運営	14	障害福祉サービスと介護保険サービスのどちらを主としているか
	15	障害福祉サービスと介護保険サービスの収入割合
	16	事業所を運営していく上での課題
	17	人材確保の取り組み
	18	今年度の収支状況
	19	今年度と昨年度の収支状況の比較
	20	収支向上や改善に向けた考え
	21	今後3年間で事業拡大・新規参入を考えているサービス
	22	新規参入や事業拡大する上で課題となること
	23	新規参入や事業拡大するために区が取り組むべきこと
	24	職員の充足度、不足している理由
	25	区全体で不足するサービス、支援とその理由
	26	地域移行を進めるうえでの課題
	27	地域移行を進めるうえで工夫していること
	28	虐待防止のために取り組んでいること
	29	職員による利用者への虐待やハラスメントを防止する工夫
	30	利用者による職員への暴力やハラスメントを防止する工夫
	31	意思決定支援の対応状況
	32	災害対策の取り組み
連携	33	地域との関わりで行っていること、これから行えること
	34	地域との連携を図るために行っていること
	35	連携している関係機関・団体
	36	連携を強化するために必要なこと
自由意見	37	障害者施策への意見・要望

<障害者団体>

設問番号	設問
1	相談・情報提供体制、コミュニケーション支援
2	自立生活支援
3	保健・医療
4	ユニバーサルデザイン、生活環境
5	雇用・就労
6	地域活動支援
7	区民の理解・共感の醸成・促進
8	地域生活環境整備
9	配慮を必要とするこどもに対する教育・療育

I 障害者・障害児

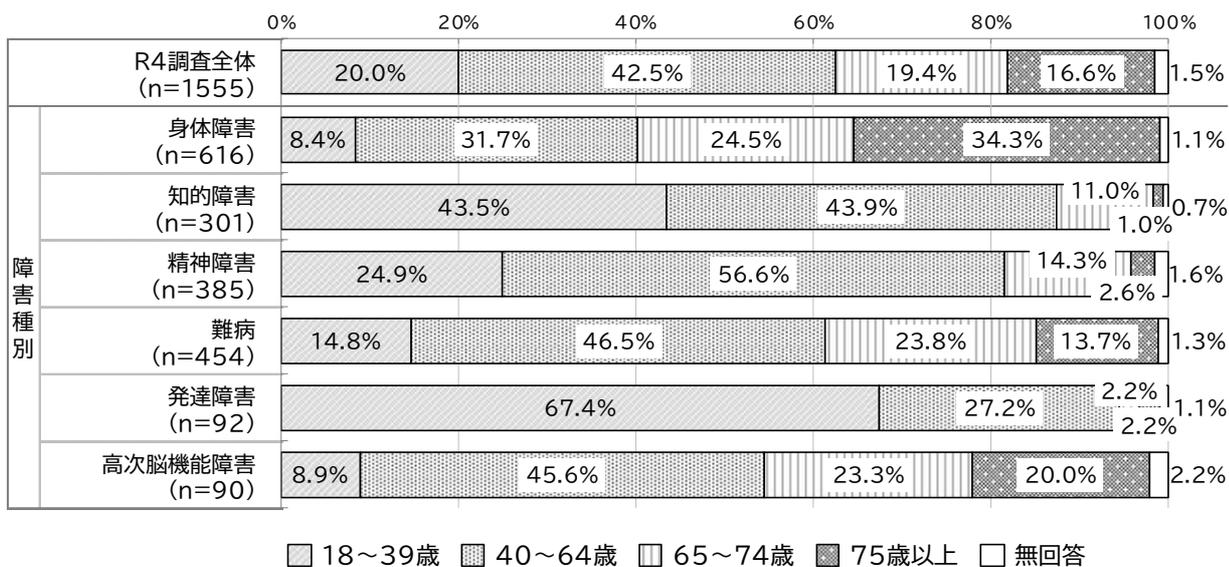
1 調査対象者について

(1)年齢

<障害者>問1

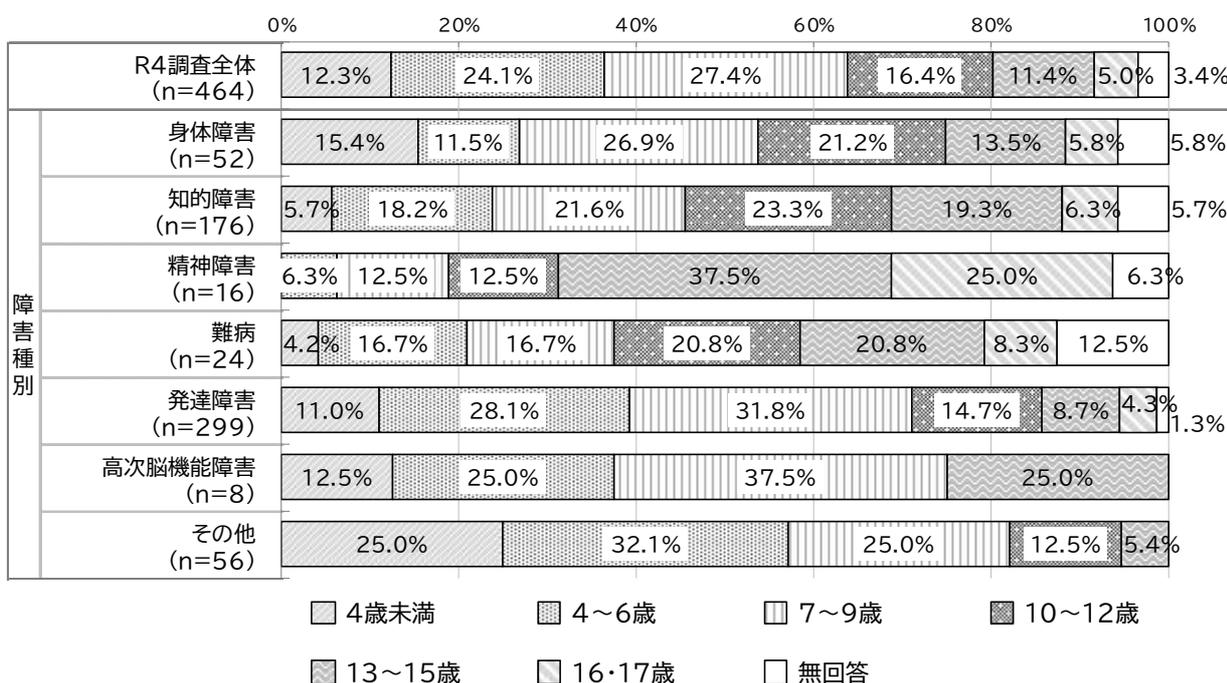
本人の年齢について、令和4年調査全体では「40～64歳」が42.5%と最も高く、次いで「18～39歳」が20.0%、「65～74歳」が19.4%となっています。

障害種別ごとにもみると、発達障害で「18～39歳」が67.4%、精神障害で「40～64歳」が56.6%、身体障害で「75歳以上」が34.3%と他の障害種別と比較して高くなっています。



<障害児>問1

子どもの年齢について、令和4年調査全体では「7～9歳」が27.4%と最も高く、次いで「4～6歳」が24.1%、「10～12歳」が16.4%となっています。



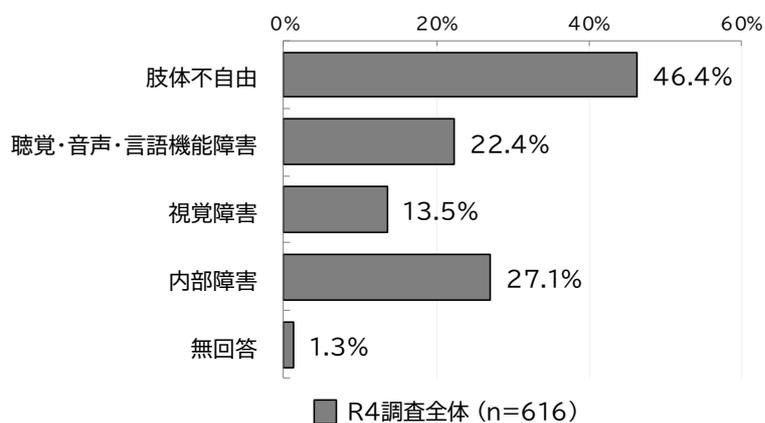
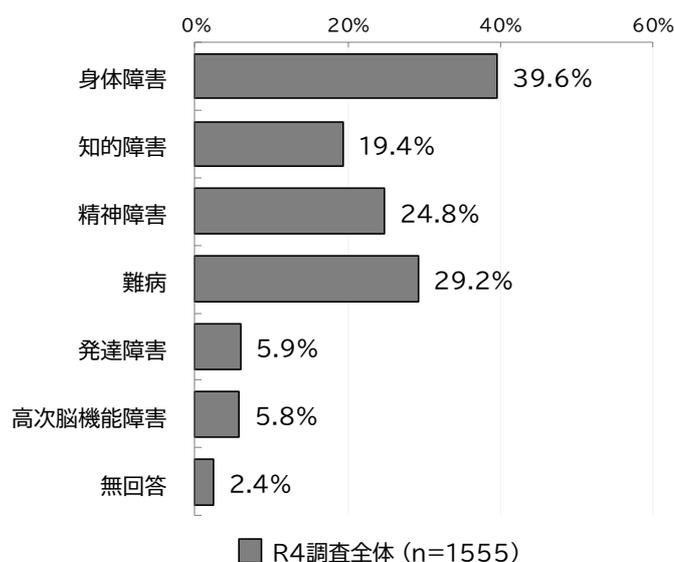
(2)障害の状況

<障害者>問2

障害について、令和4年調査全体では「身体障害」が39.6%と最も高く、次いで「難病」が29.2%、「精神障害」が24.8%となっています。

「身体障害」の方の種別をみると、令和4年調査全体では「肢体不自由」が46.4%と最も高く、次いで「内部障害」が27.1%、「聴覚・音声・言語機能障害」が22.4%となっています。

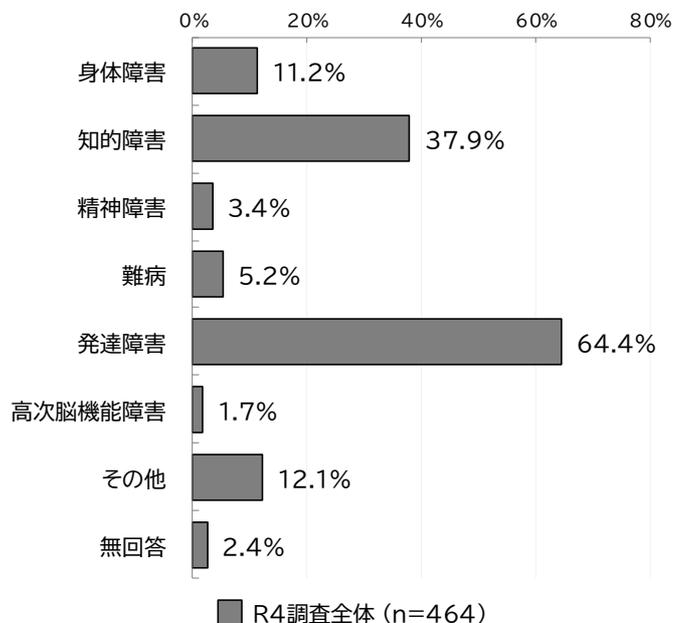
【身体障害の種別】



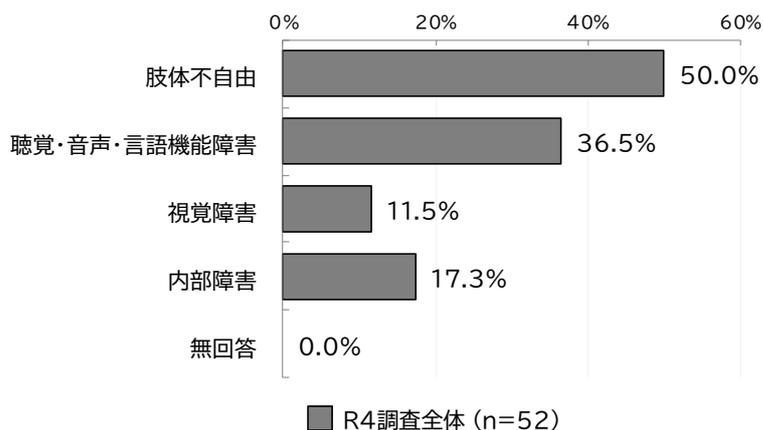
<障害児>問2

障害について、令和4年調査全体では「発達障害」が64.4%と最も高く、次いで「知的障害」が37.9%となっています。

「身体障害」の方の種別をみると、令和4年調査全体では「肢体不自由」が50.0%と最も高く、次いで「聴覚・音声・言語機能障害」が36.5%、「内部障害」が17.3%となっています。



【身体障害の種別】

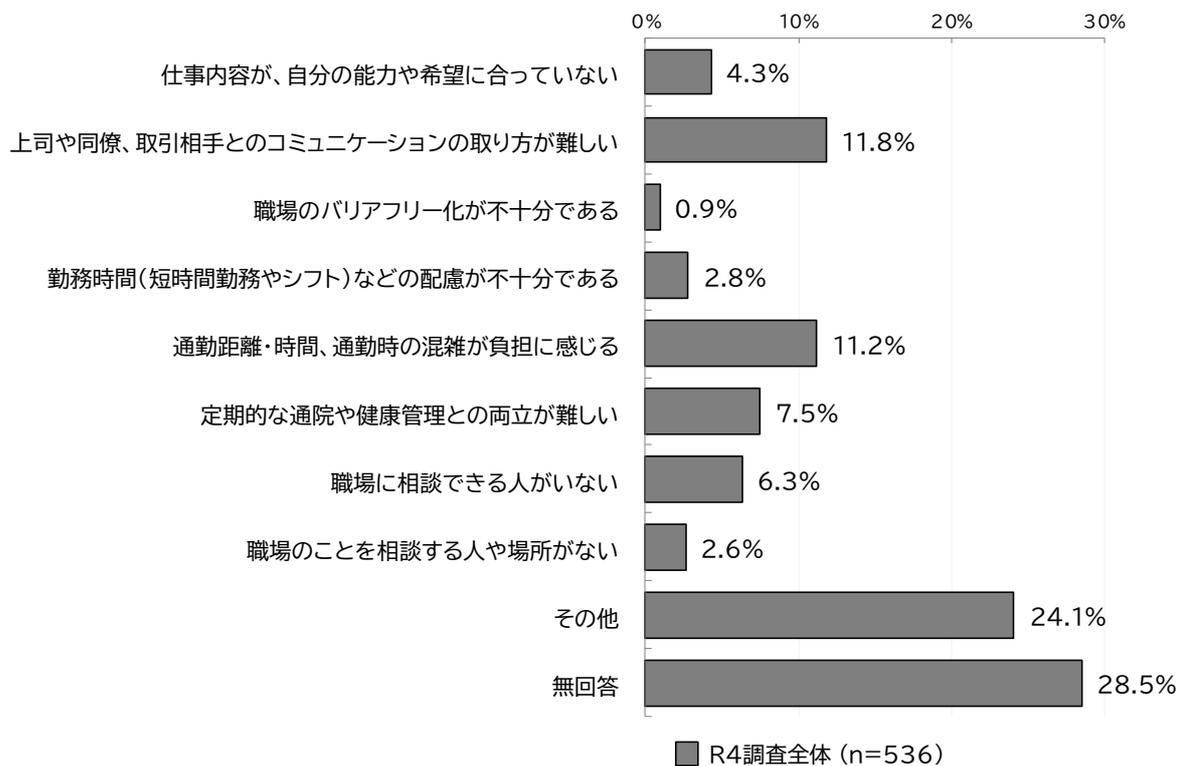


2 仕事や学校生活について

(1) 仕事をする上で困ること

<障害者> 問10

一般就労している方が、仕事をする上で困っていることについて「無回答」以外で、令和4年調査全体では「その他」が24.1%と最も高く、次いで「上司や同僚、取引相手とのコミュニケーションの取り方が難しい」が11.8%、「通勤距離・時間、通勤時の混雑が負担に感じる」が11.2%となっています。

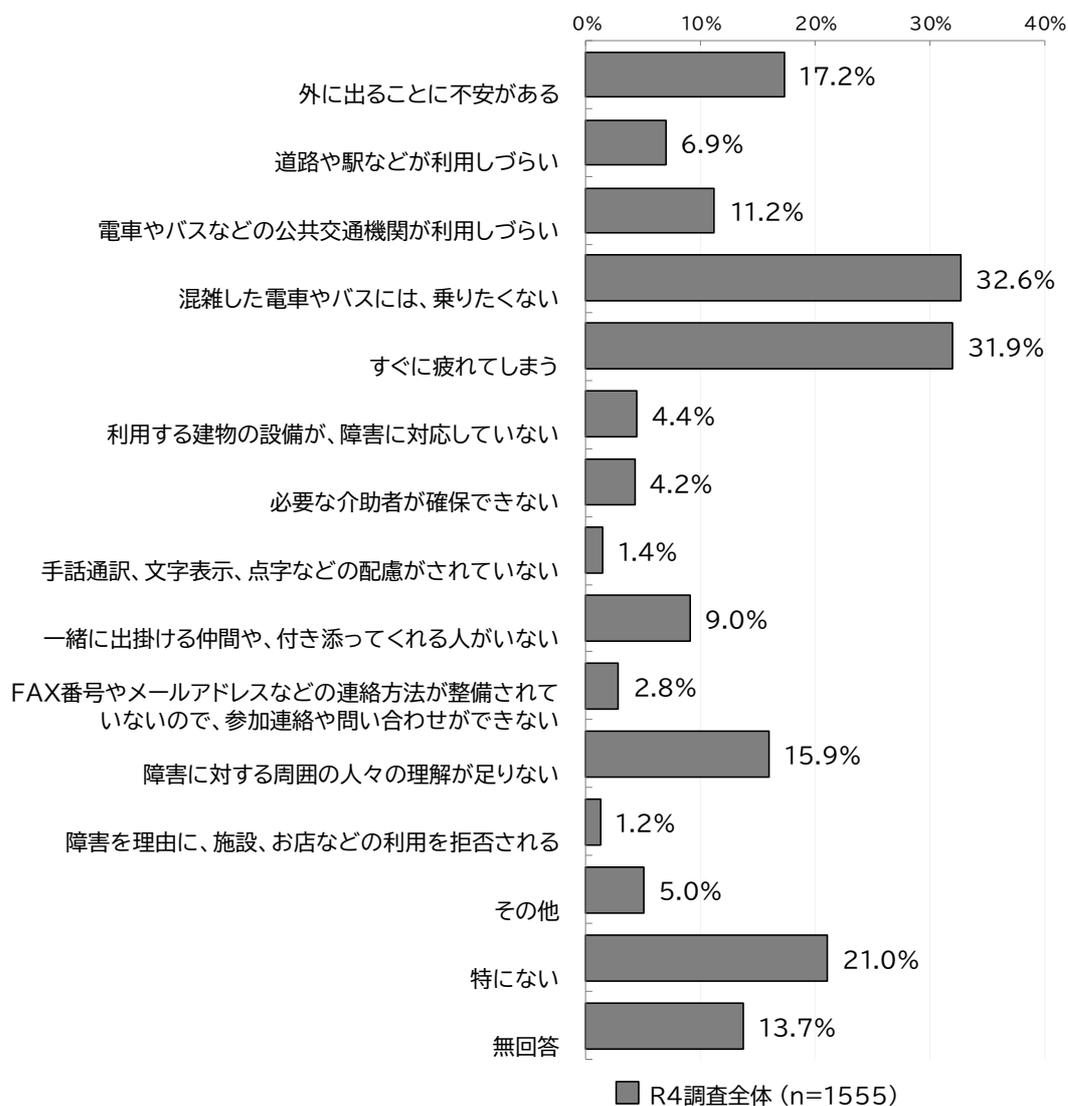


3 社会参加やコミュニケーションについて

(1)外出するとき困ること

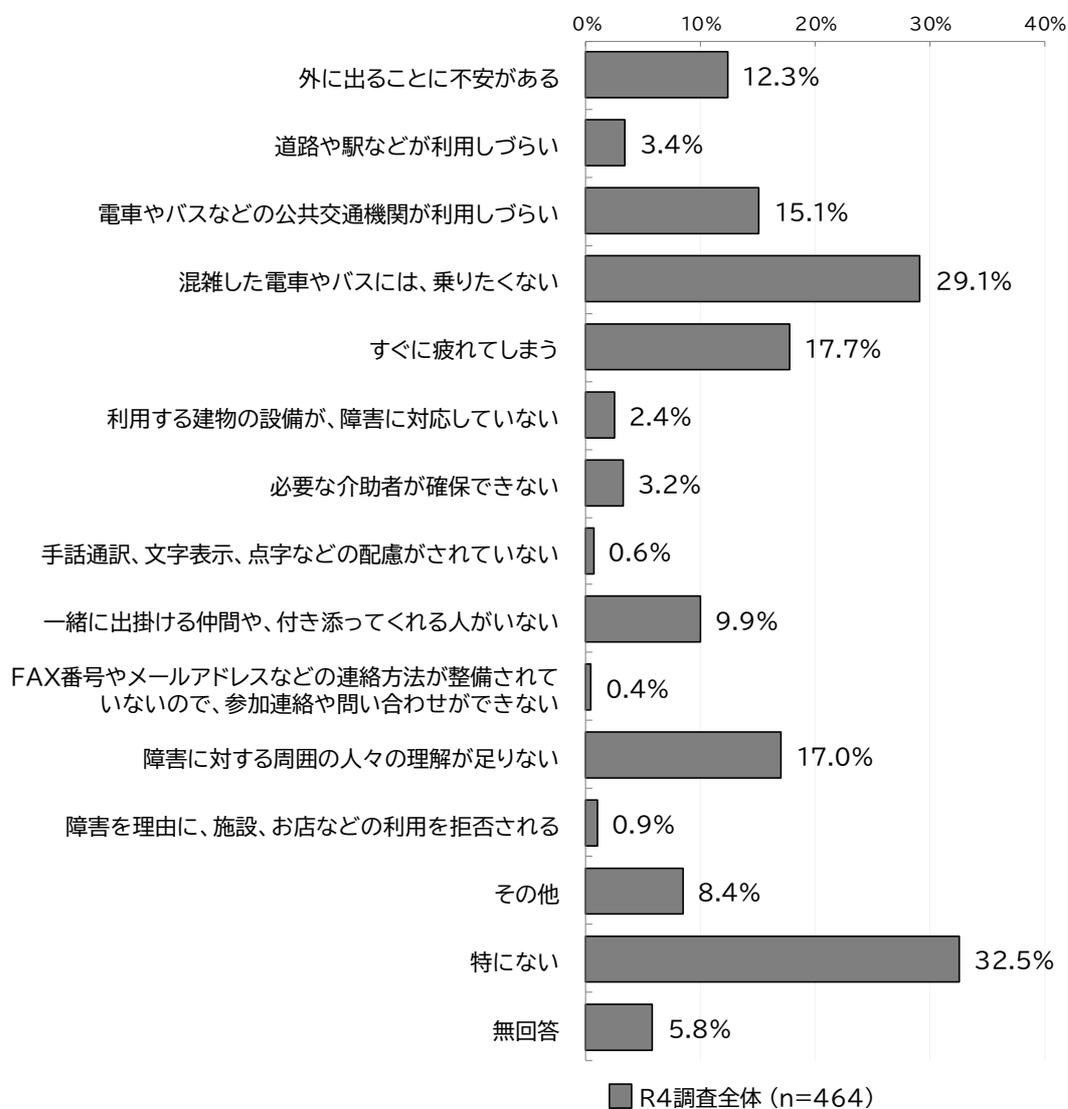
<障害者>問15

社会参加や余暇活動などで外出をするとき困ることについて、令和4年調査全体では「混雑した電車やバスには、乗りたくない」が32.6%と最も高く、次いで「すぐに疲れてしまう」が31.9%、「特にない」が21.0%となっています。



<障害児>問11

社会参加や余暇活動などで外出をするとき困ることについて、令和4年調査全体では「特にない」が32.5%と最も高く、次いで「混雑した電車やバスには、乗りたくない」が29.1%、「すぐに疲れてしまう」が17.7%、「障害に対する周囲の人々の理解が足りない」が17.0%となっています。

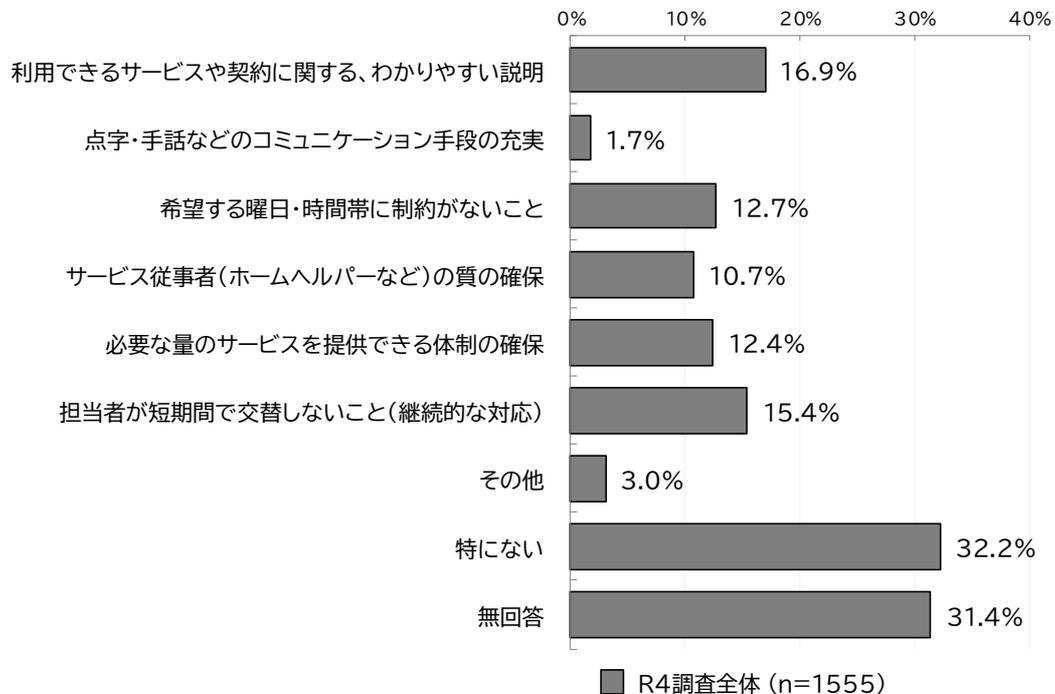


5 サービスの利用について

(1) サービス提供事業者に望むこと

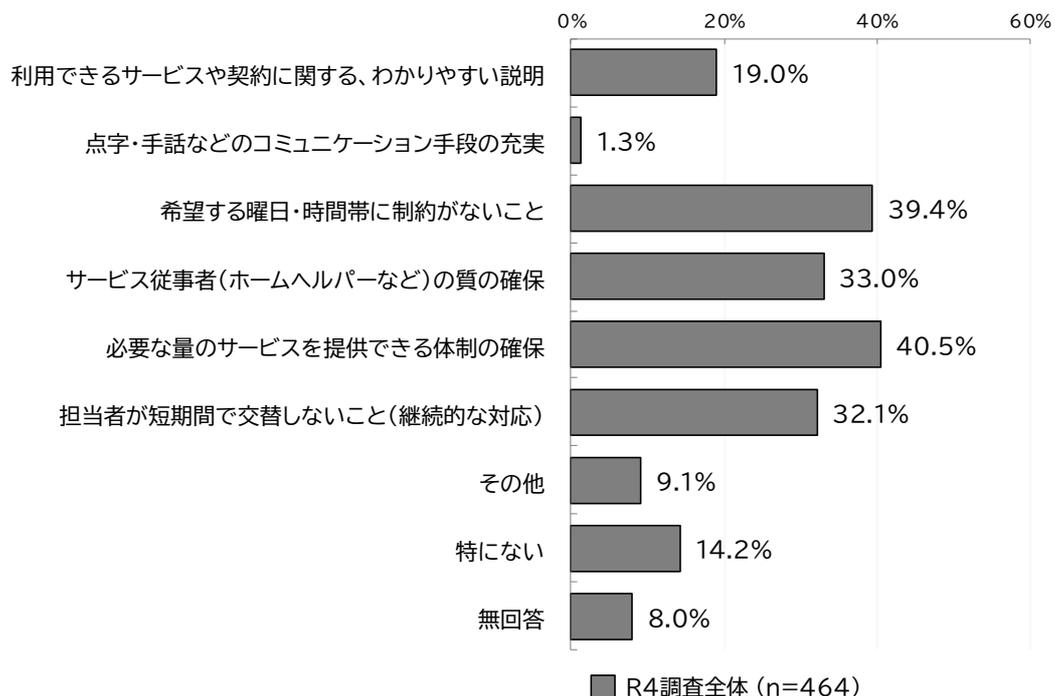
<障害者> 問24

現在利用しているサービス提供事業者への要望について「無回答」以外で、令和4年調査全体では「特にない」が32.2%と最も高く、次いで「利用できるサービスや契約に関する、わかりやすい説明」が16.9%、「担当者が短期間で交替しないこと(継続的な対応)」が15.4%となっています。



<障害児> 問20

現在利用しているサービス提供事業者への要望について、令和4年調査全体では「必要な量のサービスを提供できる体制の確保」が40.5%と最も高く、次いで「希望する曜日・時間帯に制約がないこと」が39.4%、「サービス従事者(ホームヘルパーなど)の質の確保」が33.0%、「担当者が短期間で交替しないこと(継続的な対応)」が32.1%となっています。



6 暮らしについて

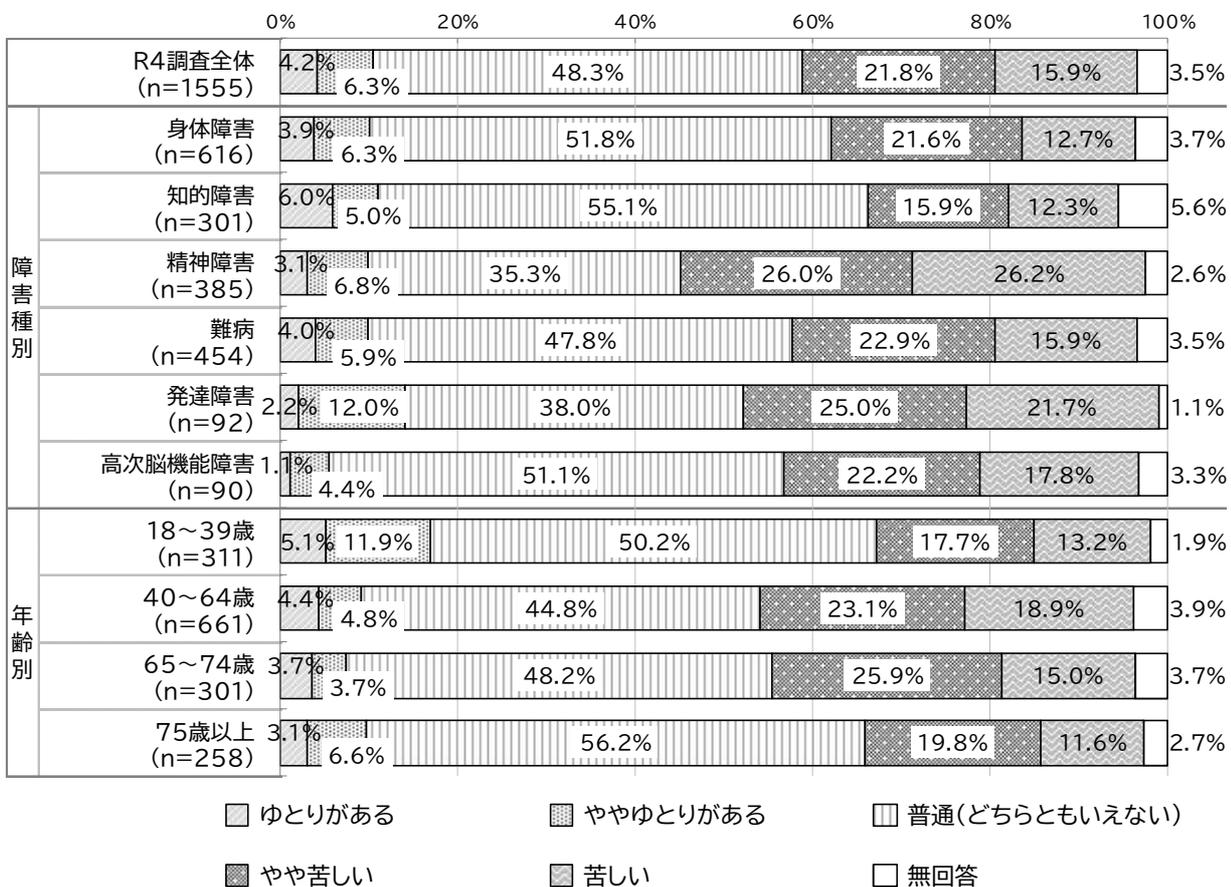
(1)現在の暮らし向き

<障害者>問28

現在の暮らし向きについて、令和4年調査全体では「普通(どちらともいえない)」が48.3%と最も高く、次いで「やや苦しい」が21.8%、「苦しい」が15.9%となっています。

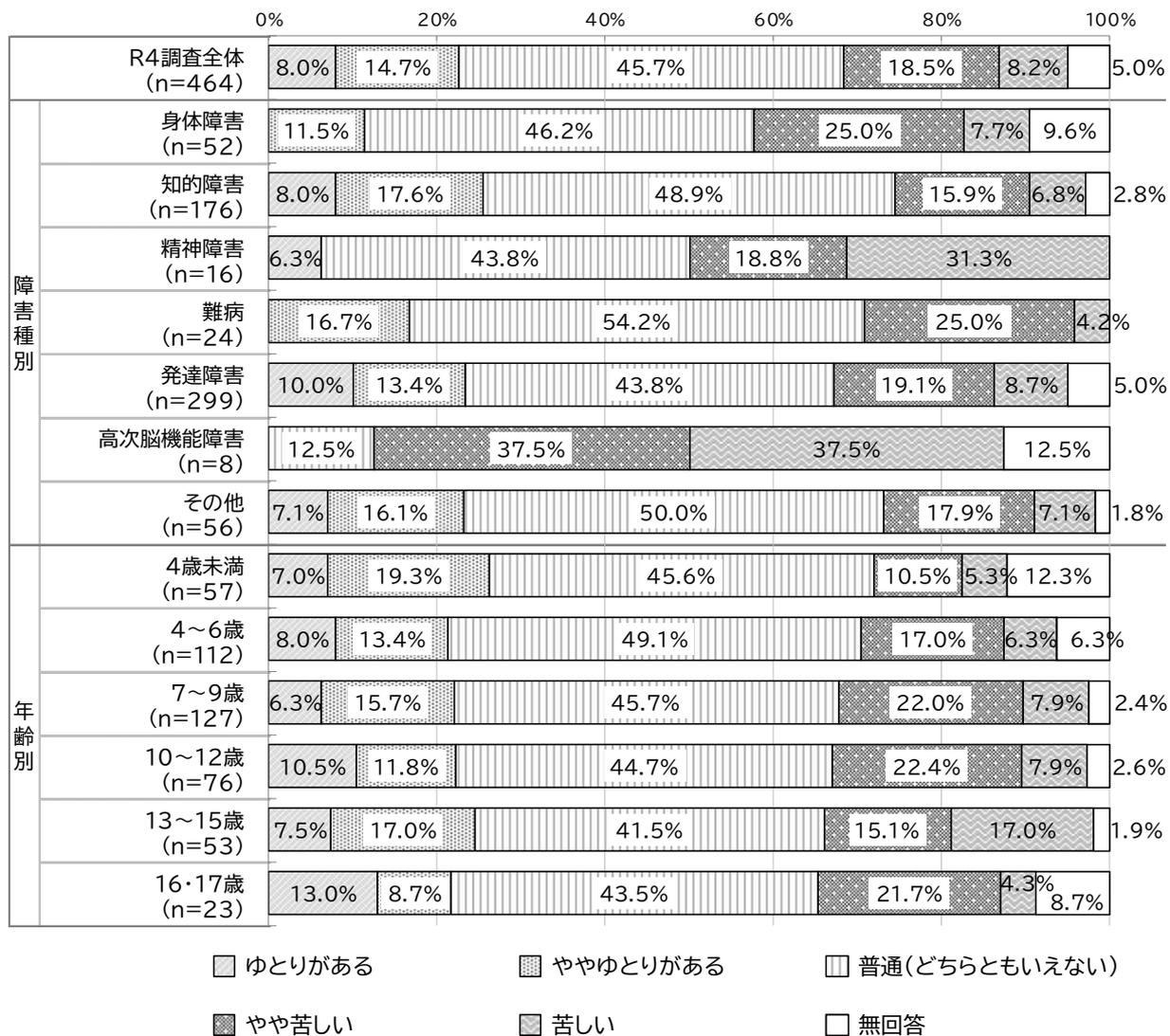
障害種別ごとにみると、発達障害で「ややゆとりがある」が12.0%と他の障害種別と比較して高くなっています。一方、精神障害は「苦しい」が26.2%と他の障害種別と比較して高くなっています。

年齢ごとにみると、18～39歳で「ややゆとりがある」が11.9%と他の年齢と比較して高くなっています。



<障害児>問23

現在の暮らし向きについて、令和4年調査全体では「普通(どちらともいえない)」が45.7%と最も高く、次いで「やや苦しい」が18.5%、「ややゆとりがある」が14.7%となっています。



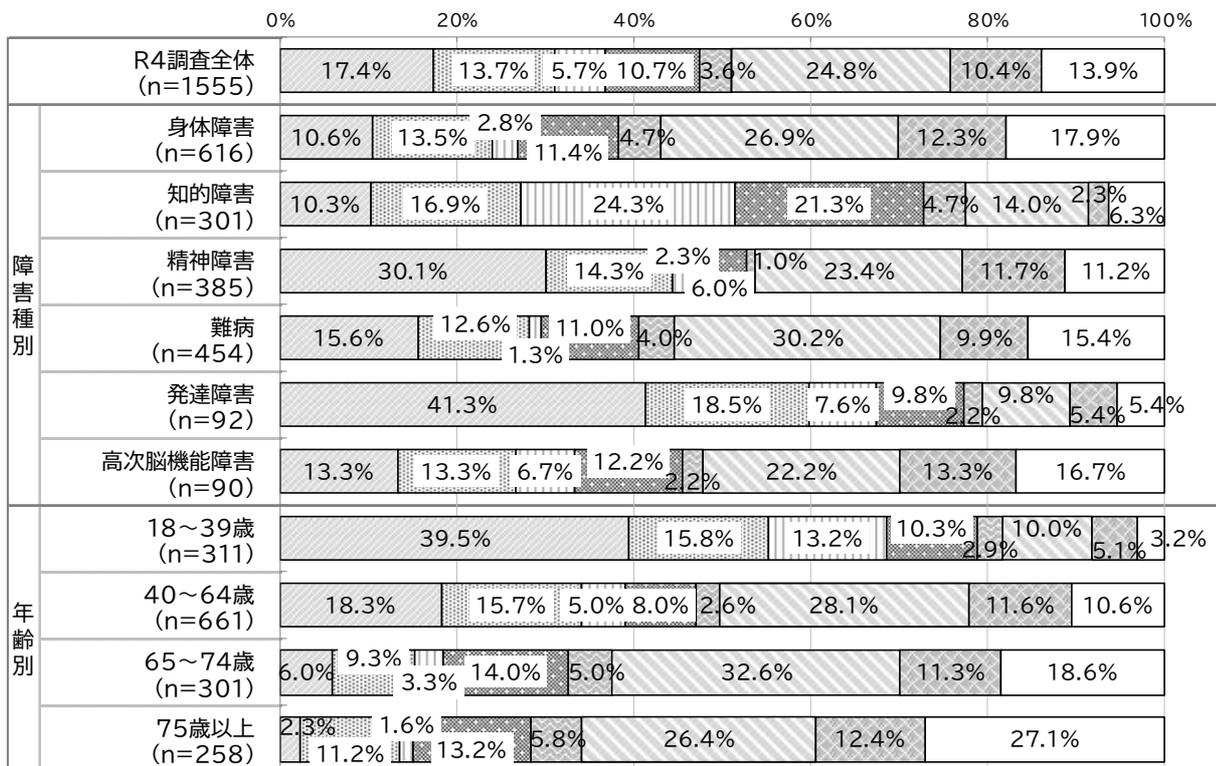
(2)将来希望する暮らし方

<障害者>問29

将来希望している暮らし方について、令和4年調査全体では「わからない」が24.8%と最も高く、次いで「親元から独立した生活(ひとり暮らし、結婚など)」が17.4%、「親や親族のもとでの生活」が13.7%となっています。

障害種別ごとにみると、発達障害で「親元から独立した生活(ひとり暮らし、結婚など)」が41.3%と他の障害種別と比較して高くなっています。また、知的障害で「グループホームでの生活」が24.3%と他の障害種別と比較して高くなっています。

年齢ごとにみると、18～39歳で「親元から独立した生活(ひとり暮らし、結婚など)」が39.5%と他の年齢と比較して高くなっています。

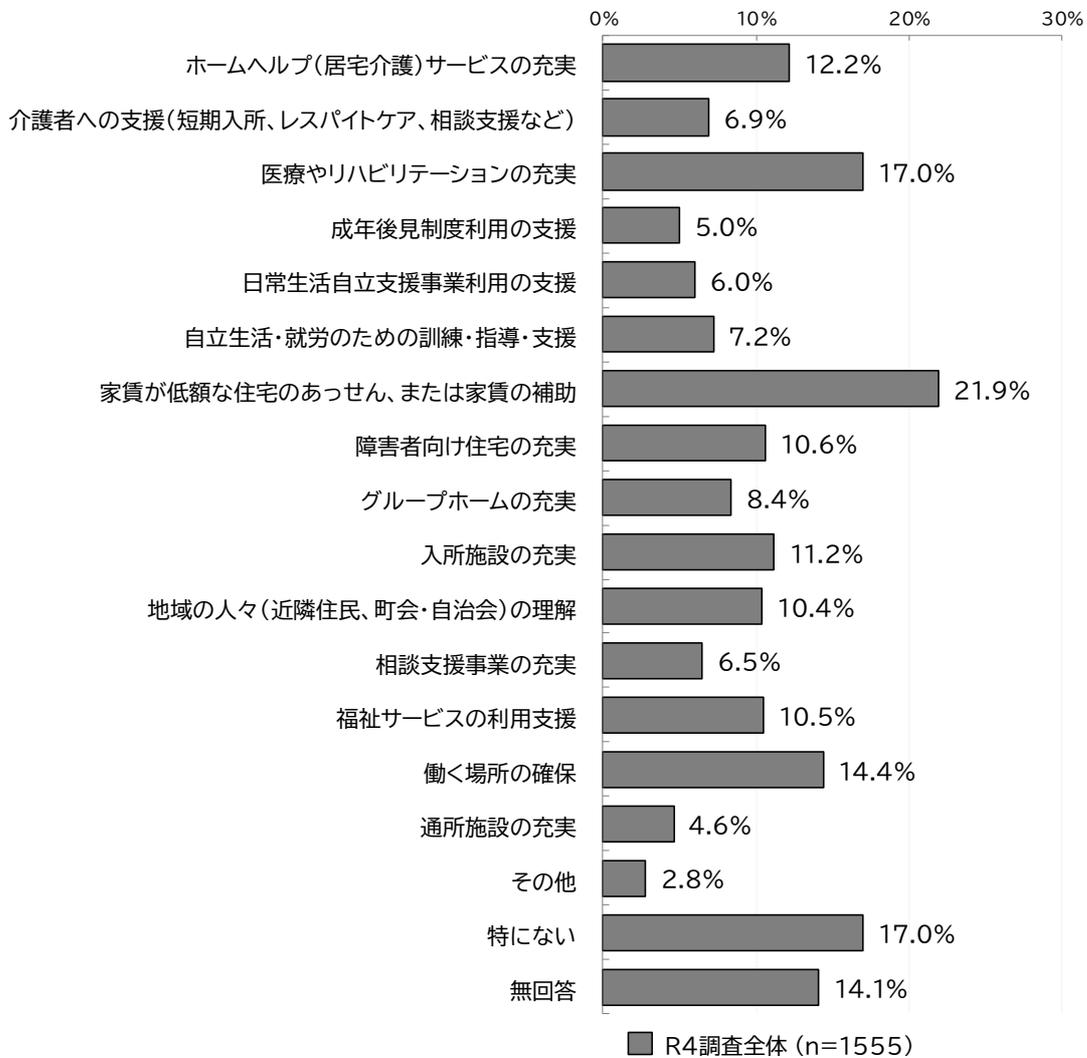


- 親元から独立した生活(ひとり暮らし、結婚など)
- 親や親族のもとでの生活
- グループホームでの生活
- 区内に施設があれば、入所施設での生活
- 区外でも良いので、入所施設での生活
- わからない
- その他
- 無回答

(3)希望する暮らしをするために必要なこと

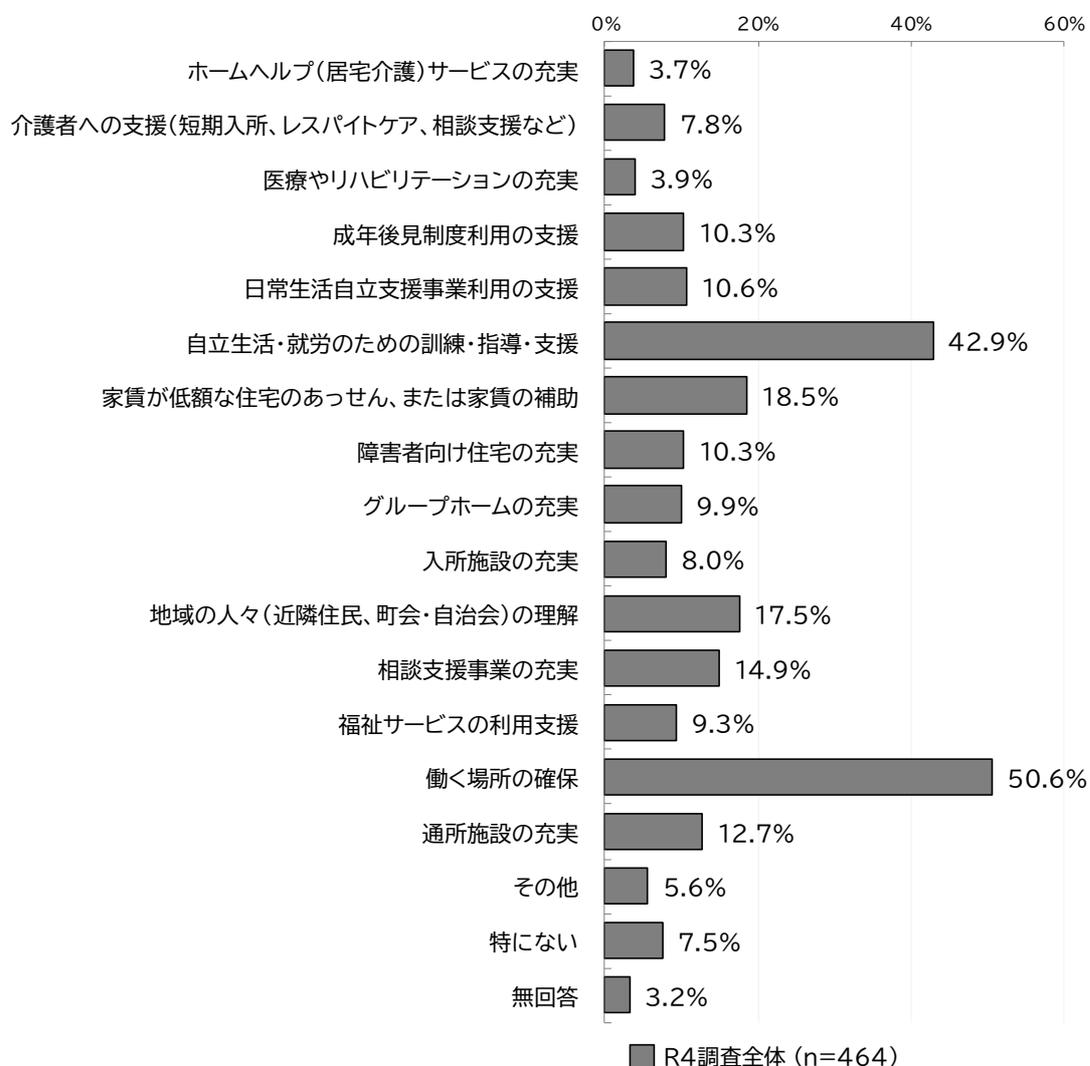
<障害者>問30

希望する暮らしをするために必要なことについて、令和4年調査全体では「家賃が低額な住宅のあっせん、または家賃の補助」が21.9%と最も高く、次いで「医療やリハビリテーションの充実」「特にない」が同率で17.0%、「働く場所の確保」が14.4%となっています。



<障害児>問24

将来自立した生活を送るために必要なことについて、令和4年調査全体では「働く場所の確保」が50.6%と最も高く、次いで「自立生活・就労のための訓練・指導・支援」が42.9%、「家賃が低額な住宅のあっせん、または家賃の補助」が18.5%となっています。



7 災害時の支援について

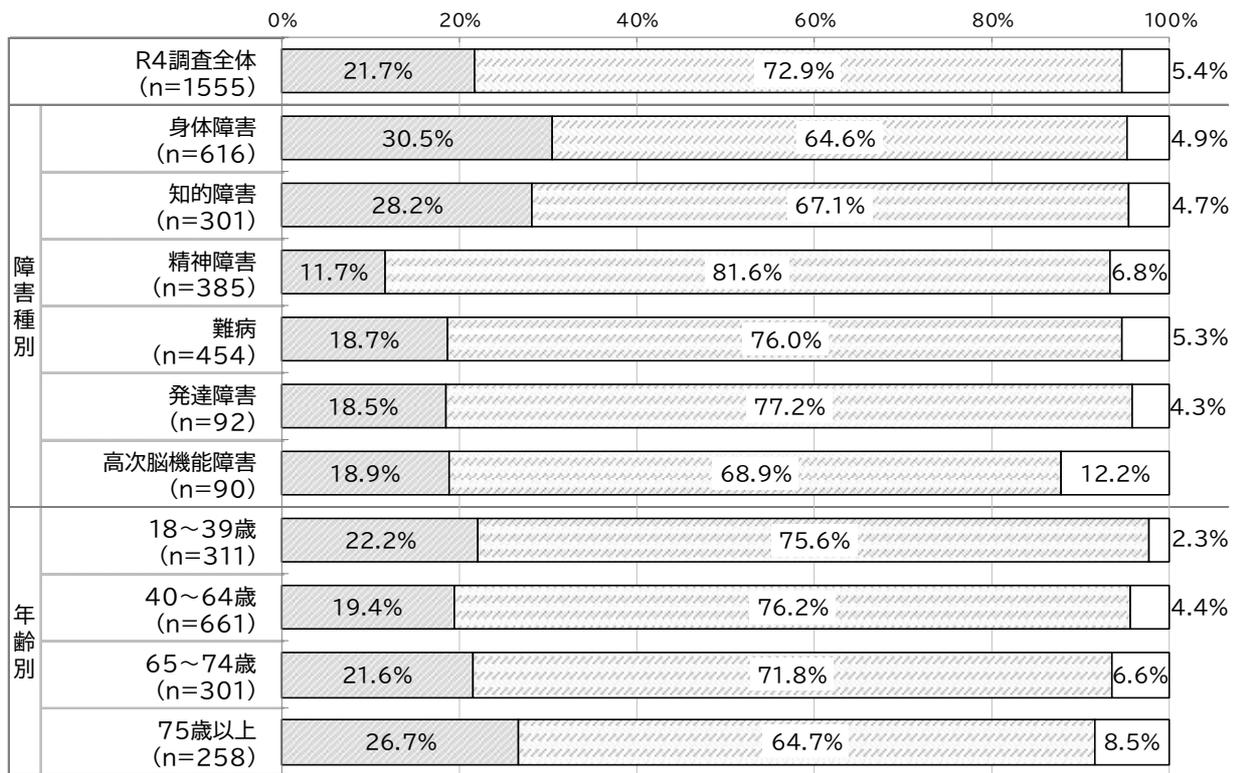
(1)「避難行動要支援者名簿」の認知度

<障害者>問32

「避難行動要支援者名簿」を知っていたかについて、令和4年調査全体では「知らなかった」が72.9%、「知っていた」が21.7%となっています。

障害種別ごとにみると、「知っていた」は身体障害で30.5%、知的障害で28.2%と他の障害種別と比較して高くなっています。

年齢ごとにみると、「知っていた」は75歳以上で26.7%と他の年齢と比較して高めになっています。



知っていた
 知らなかった
 無回答

8 障害者施策について

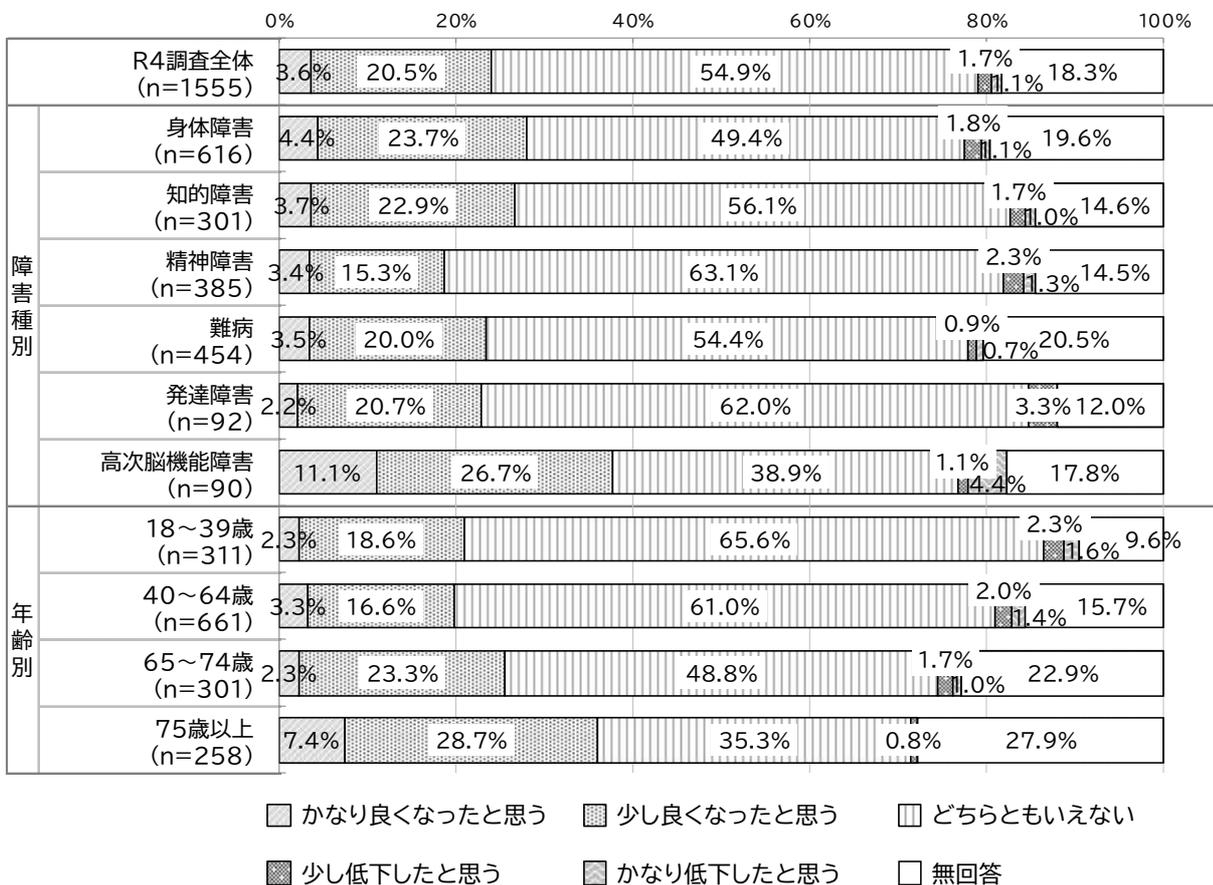
(1)江東区の福祉サービスについて

<障害者>問42

3年前と比べて江東区の福祉サービスは変化したと思うかについて「無回答」以外で、令和4年調査全体では「どちらともいえない」が54.9%と最も高く、次いで「少し良くなったと思う」が20.5%、「かなり良くなったと思う」が3.6%となっています。

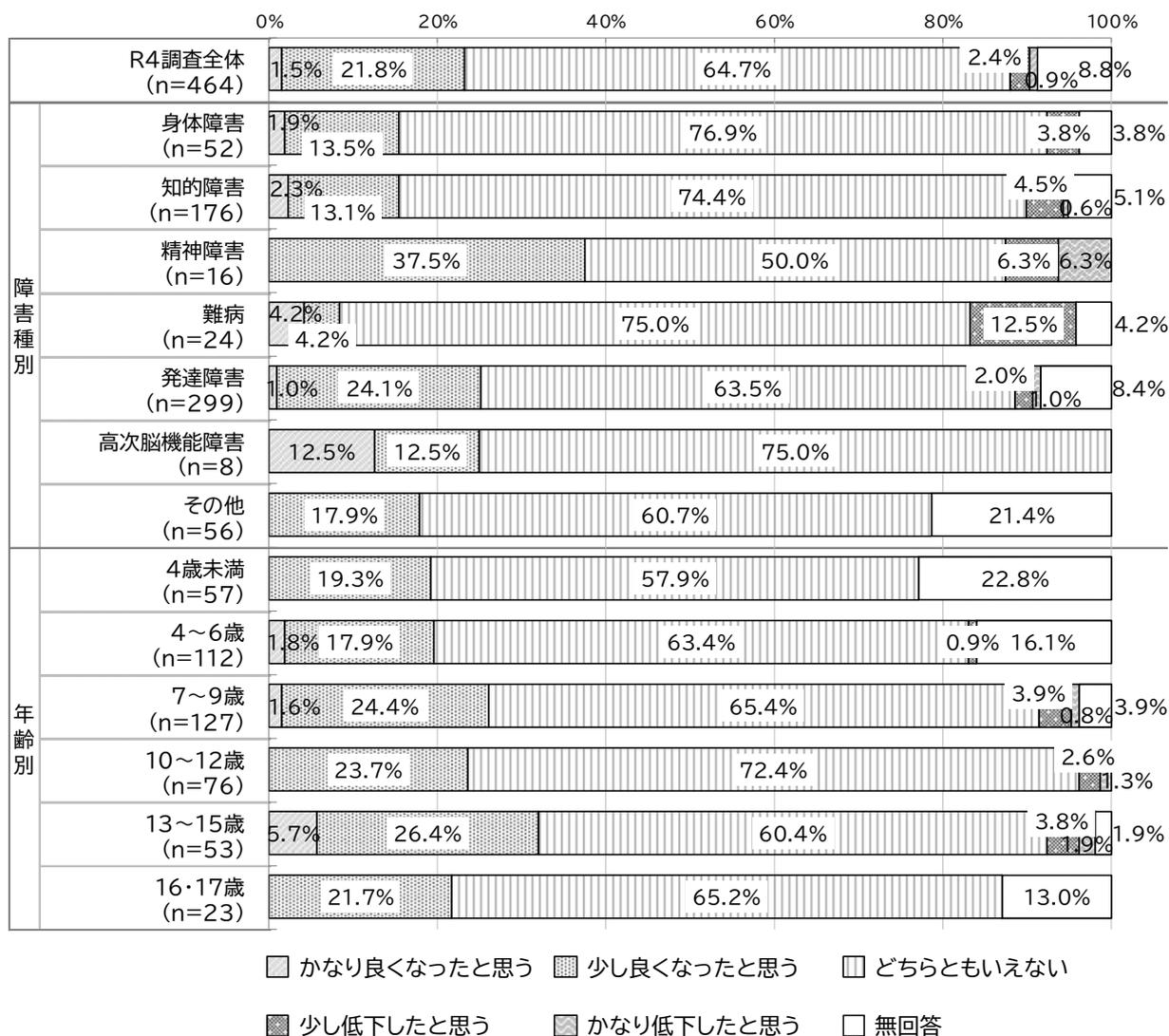
障害種別ごとにみると、高次脳機能障害で「かなり良くなったと思う」が11.1%と他の障害種別と比較して高くなっています。一方、「どちらともいえない」は精神障害が63.1%、発達障害が62.0%で他の障害種別と比較して高くなっています。

年齢ごとにみると、75歳以上で「少し良くなったと思う」が28.7%と他の年齢と比較して高く、「かなり良くなったと思う」も7.4%と高めになっています。



<障害児>問37

3年前と比べて江東区の福祉サービスは変化したと思うかについて「無回答」以外で、令和4年調査全体では「どちらともいえない」が64.7%と最も高く、次いで「少し良くなったと思う」が21.8%となっています。

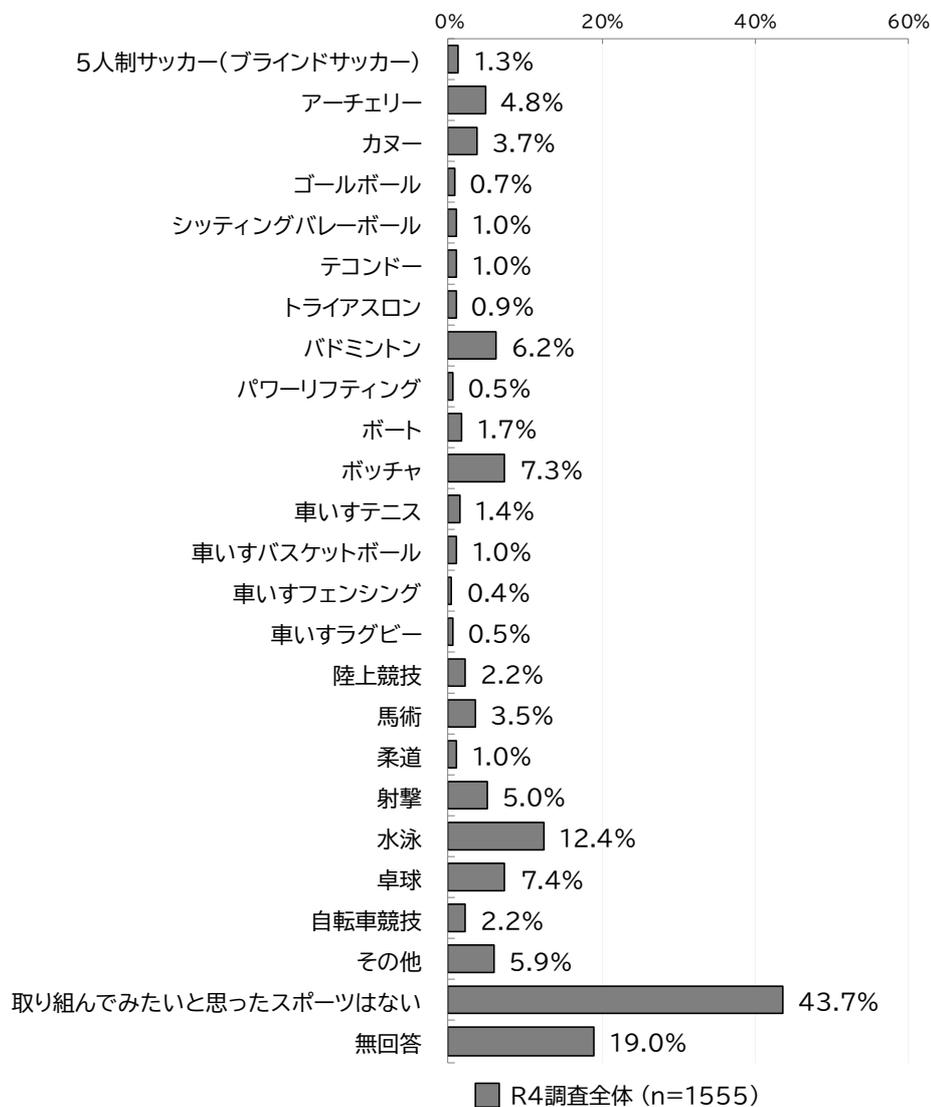


9 障害者スポーツについて

(1) 取り組んでみたいスポーツ

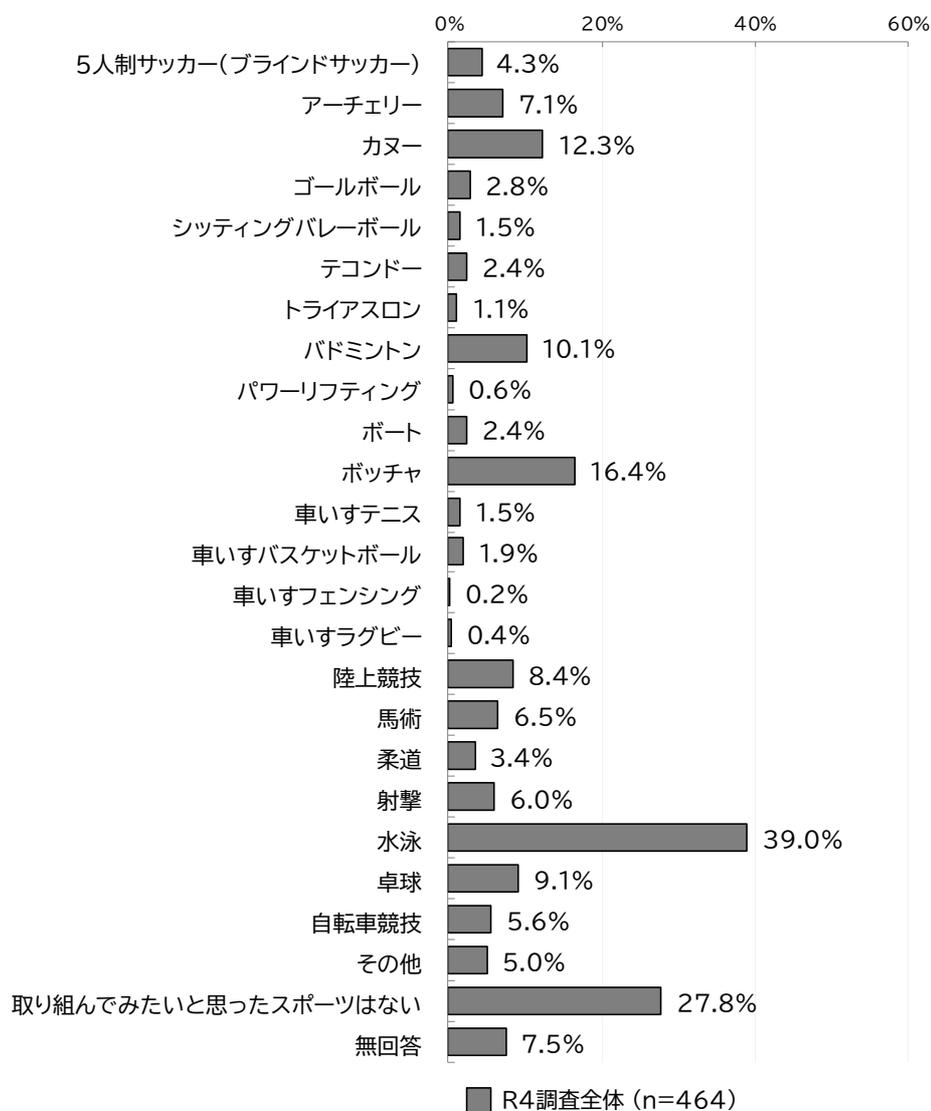
<障害者> 問46

取り組んでみたいと思ったスポーツについて「無回答」以外で、令和4年調査全体では「取り組んでみたいと思ったスポーツはない」が43.7%と最も高く、次いで「水泳」が12.4%、「卓球」が7.4%、「ボッチャ」が7.3%となっています。



<障害児>問41

取り組んでみたいと思ったスポーツについて、令和4年調査全体では「水泳」が39.0%と最も高く、次いで「取り組んでみたいと思ったスポーツはない」が27.8%、「ボッチャ」が16.4%、「カヌー」が12.3%となっています。

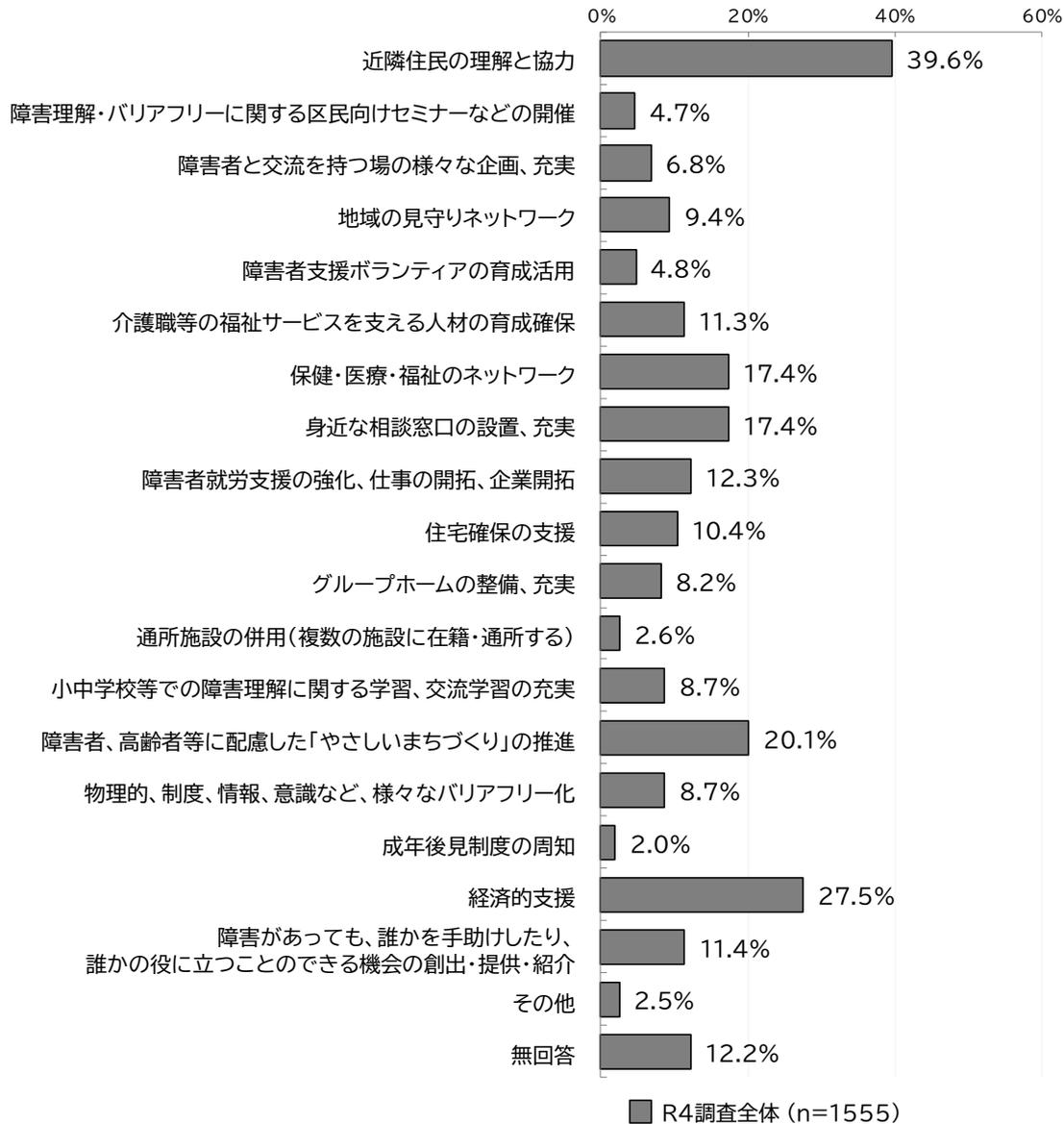


10 共生社会について

(1) 共生社会の実現のために大切なこと

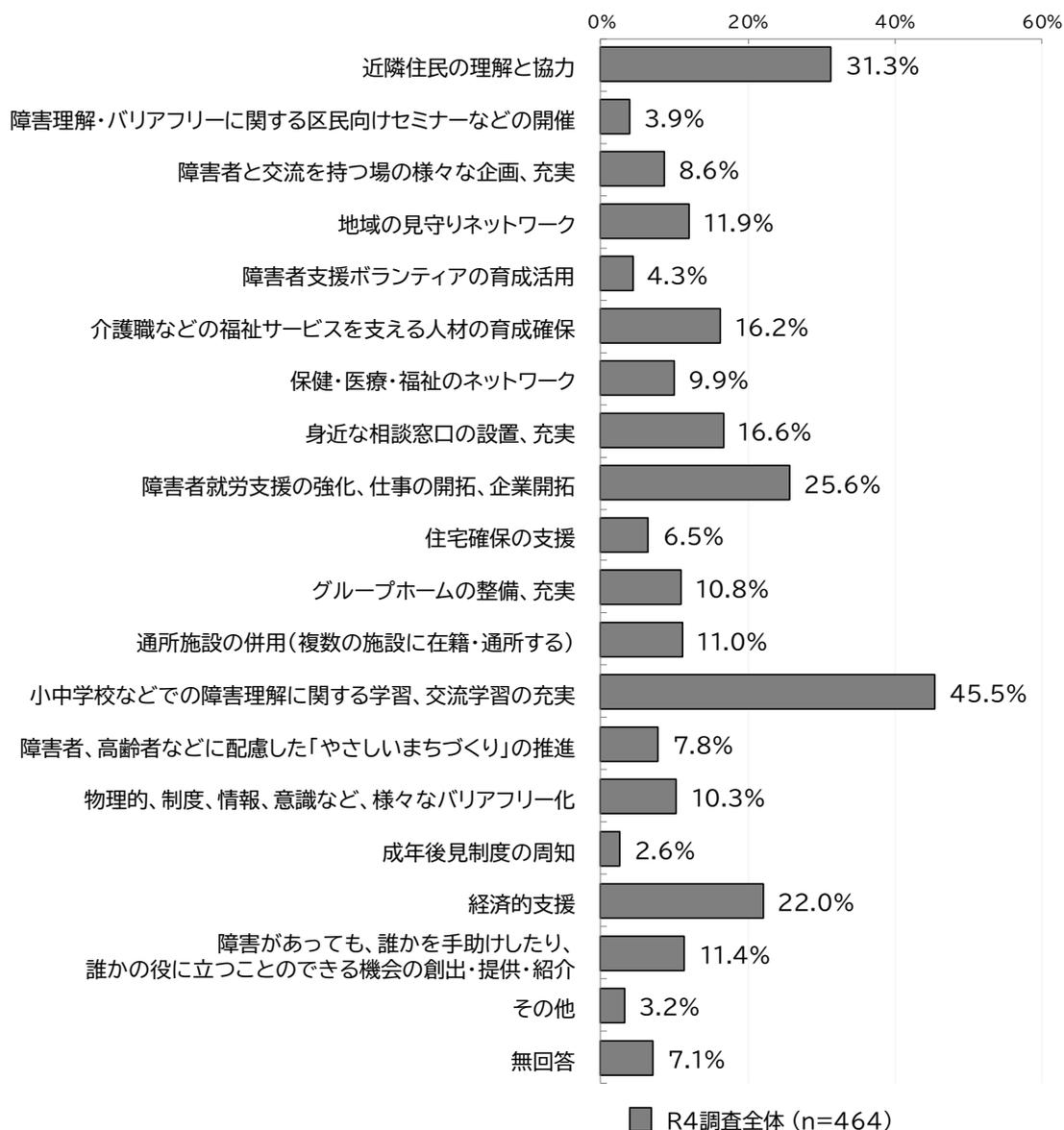
< 障害者 > 問52

共に生活できる地域社会の実現のために大切だと考えることについて、令和4年調査全体では「近隣住民の理解と協力」が39.6%と最も高く、次いで「経済的支援」が27.5%、「障害者、高齢者等に配慮した「やさしいまちづくり」の推進」が20.1%となっています。



<障害児>問47

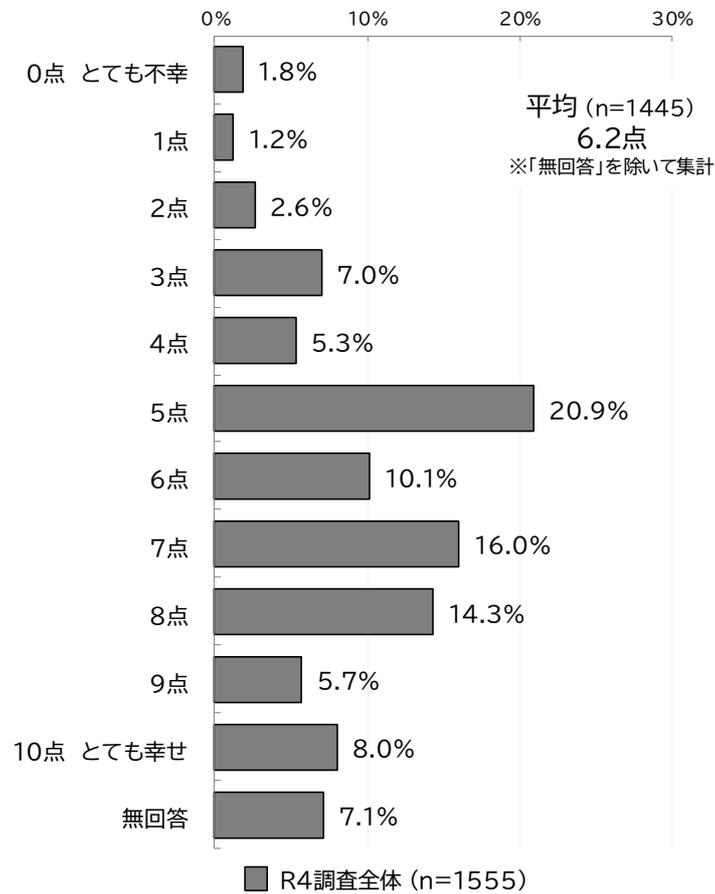
共に生活できる地域社会の実現のために大切だと考えることについて、令和4年調査全体では「小中学校などでの障害理解に関する学習、交流学習の充実」が45.5%と最も高く、次いで「近隣住民の理解と協力」が31.3%、「障害者就労支援の強化、仕事の開拓、企業開拓」が25.6%となっています。



(2)幸福度

<障害者>問56

幸福度について、令和4年調査全体では「5点」が20.9%と最も高く、次いで「7点」が16.0%、「8点」が14.3%となっています。「0点」から「10点」のいずれかを回答した方の平均は6.2点となっています。



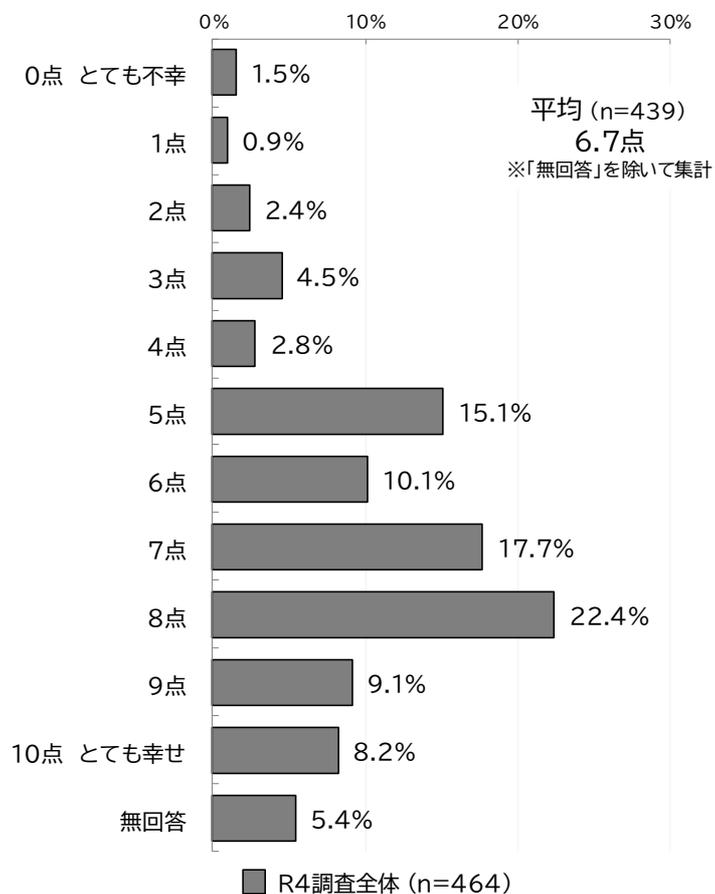
障害種別ごとにみると、精神障害で「0点」～「4点」と回答した方が多く、平均は5点と障害種別のなかで最も低い幸福度となっています。

年齢ごとにみると、75歳以上で「0点」～「4点」と回答した方が少なく、平均は6.7点と年齢別のなかで最も高い幸福度となっています。

	合計	問56.幸福度														合計 ※無回答を除く	平均(点)
		0点 とても不幸	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 とても幸せ	無回答				
障害種別	身体障害	616 100.0%	12 1.9	4 0.6	9 1.5	29 4.7	29 4.7	127 20.6	59 9.6	108 17.5	102 16.6	39 6.3	52 8.4	46 7.5	570	6.4	
	知的障害	301 100.0%	2 0.7	1 0.3	8 2.7	15 5.0	7 2.3	79 26.2	25 8.3	38 12.6	45 15.0	17 5.6	34 11.3	30 10.0	271	6.5	
	精神障害	385 100.0%	16 4.2	14 3.6	26 6.8	48 12.5	31 8.1	80 20.8	47 12.2	38 9.9	31 8.1	10 2.6	17 4.4	27 7.0	358	5.0	
	難病	454 100.0%	9 2.0	0 0.0	10 2.2	31 6.8	20 4.4	79 17.4	47 10.4	94 20.7	72 15.9	35 7.7	29 6.4	28 6.2	426	6.4	
	発達障害	92 100.0%	2 2.2	0 0.0	5 5.4	9 9.8	5 5.4	19 20.7	13 14.1	8 8.7	13 14.1	3 3.3	9 9.8	6 6.5	86	5.9	
	高次脳機能障害	90 100.0%	4 4.4	0 0.0	1 1.1	7 7.8	4 4.4	12 13.3	6 6.7	14 15.6	14 15.6	6 6.7	9 10.0	13 14.4	77	6.4	
年齢別	18～39歳	311 100.0%	5 1.6	3 1.0	6 1.9	21 6.8	15 4.8	57 18.3	32 10.3	52 16.7	44 14.1	24 7.7	37 11.9	15 4.8	296	6.5	
	40～64歳	661 100.0%	16 2.4	12 1.8	28 4.2	58 8.8	35 5.3	139 21.0	66 10.0	90 13.6	95 14.4	37 5.6	39 5.9	46 7.0	615	5.8	
	65～74歳	301 100.0%	3 1.0	2 0.7	5 1.7	20 6.6	22 7.3	65 21.6	30 10.0	66 21.9	31 10.3	12 4.0	21 7.0	24 8.0	277	6.1	
	75歳以上	258 100.0%	2 0.8	1 0.4	2 0.8	8 3.1	10 3.9	58 22.5	27 10.5	39 15.1	51 19.8	15 5.8	26 10.1	19 7.4	239	6.7	

<障害児>問50

幸福度について、令和4年調査全体では「8点」が22.4%と最も高く、次いで「7点」が17.7%、「5点」が15.1%となっています。「0点」から「10点」のいずれかを回答した方の平均は6.7点となっています。

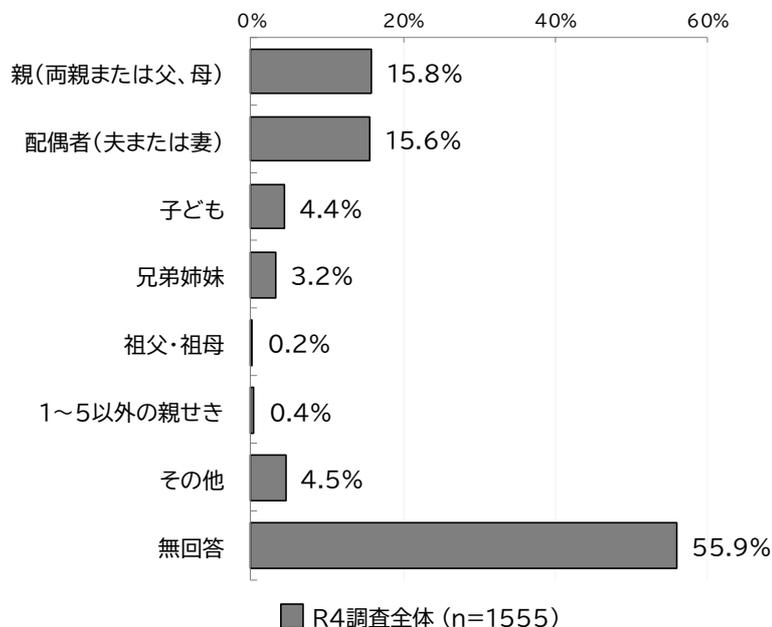


11 介護者について

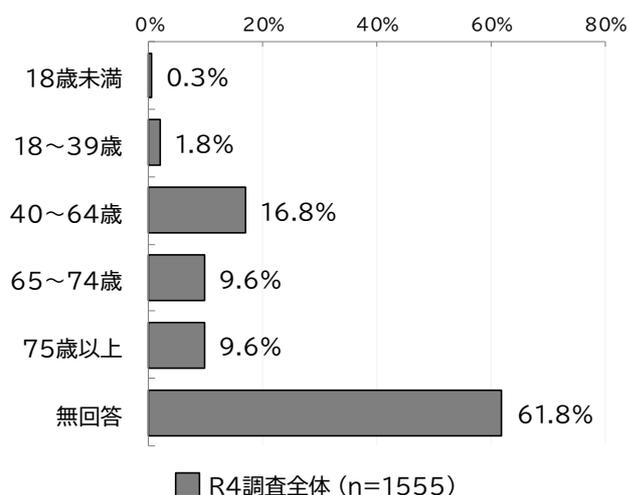
(1)主たる介護者の続柄と年齢

<障害者>問58

主な介護者の続柄は「無回答」以外で、令和4年調査全体では「親(両親または父、母)」が15.8%と最も高く、次いで「配偶者(夫または妻)」が15.6%、「その他」が4.5%、「子ども」が4.4%となっています。



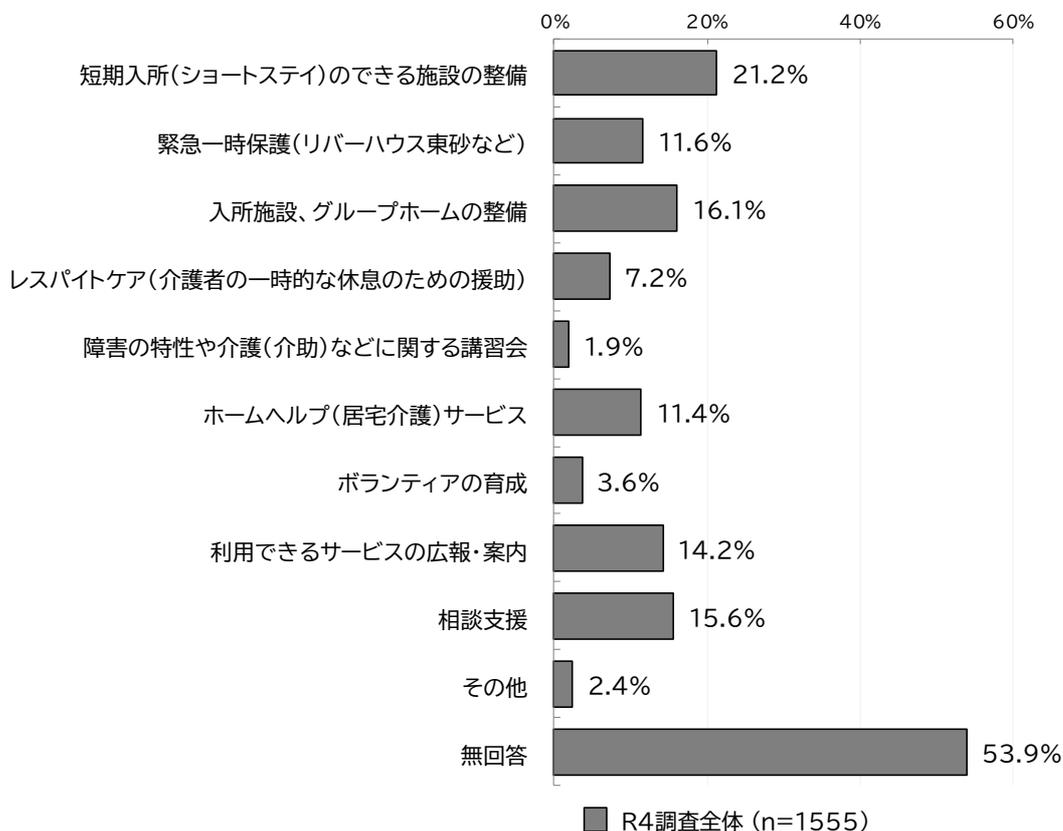
主な介護者の年齢は「無回答」以外で、令和4年調査全体では「40～64歳」が16.8%と最も高く、次いで「65～74歳」「75歳以上」が同率で9.6%となっています。



(2)介護者支援で充実してほしいこと

<障害者>問61

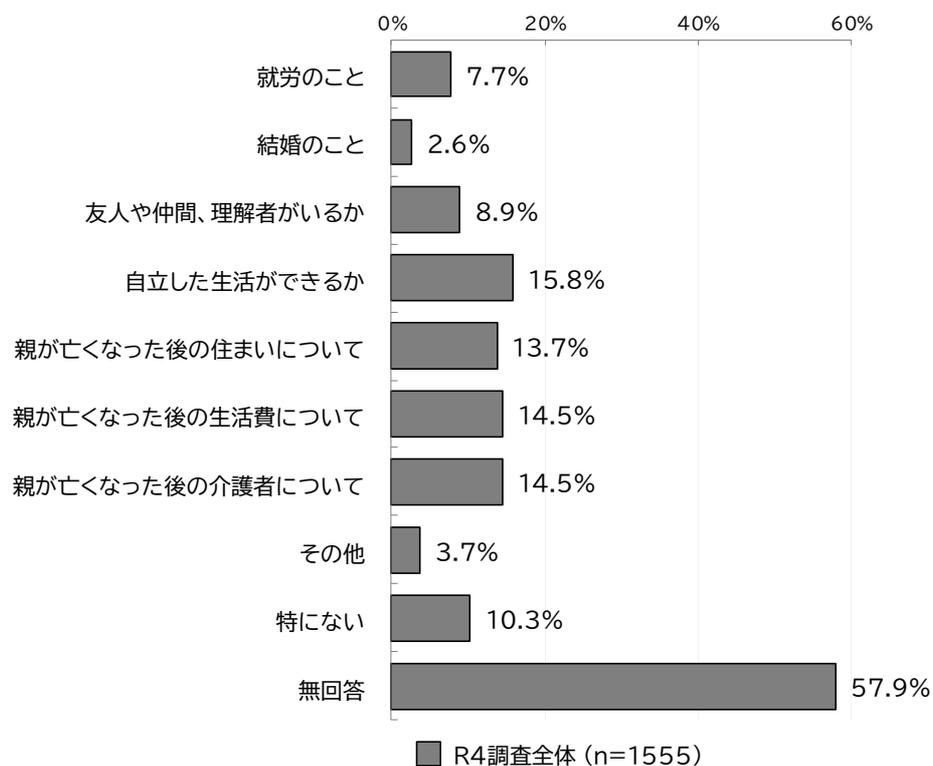
主な介護者が、今後充実してほしい家族介護の支援策について「無回答」以外で、令和4年調査全体では「短期入所(ショートステイ)のできる施設の整備」が21.2%と最も高く、次いで「入所施設、グループホームの整備」が16.1%、「相談支援」が15.6%となっています。



(3)将来のことで不安に思うこと

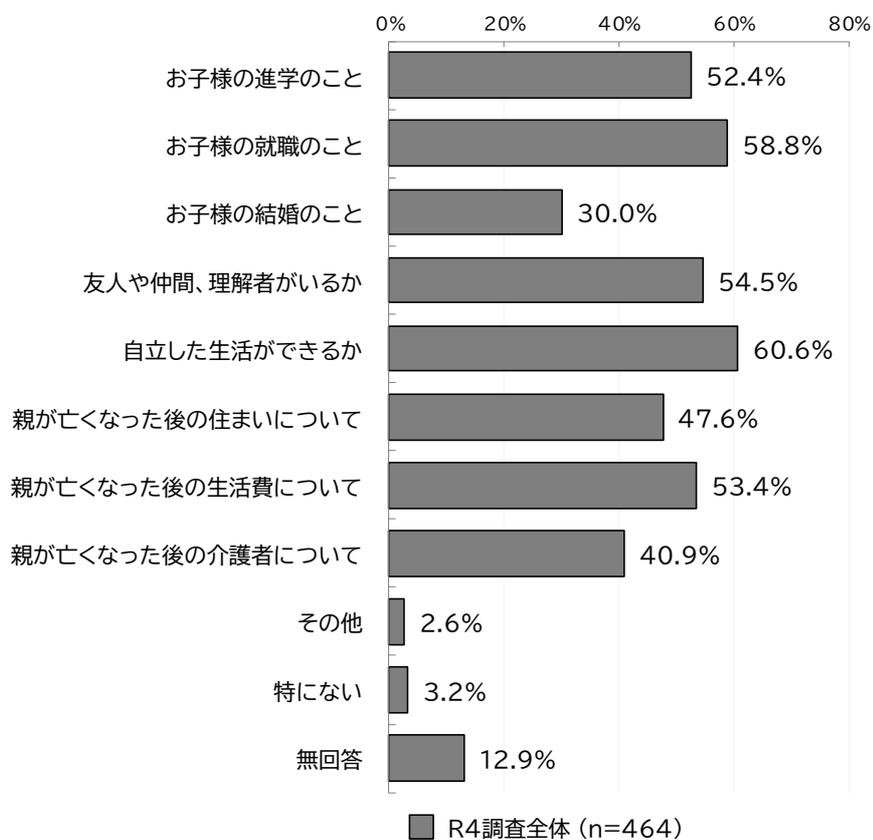
<障害者>問67

主な介護者が、介護している人の将来のことで不安に思うことについて「無回答」以外で、令和4年調査全体では「自立した生活ができるか」が15.8%と最も高く、次いで「親が亡くなった後の生活費について」「親が亡くなった後の介護者について」が同率で14.5%、「親が亡くなった後の住まいについて」が13.7%となっています。



<障害児>問58

主な介護者が、子どもの将来のことで不安に思うことについて、令和4年調査全体では「自立した生活ができるか」が60.6%と最も高く、次いで「お子様の就職のこと」が58.8%、「友人や仲間、理解者がいるか」が54.5%となっています。



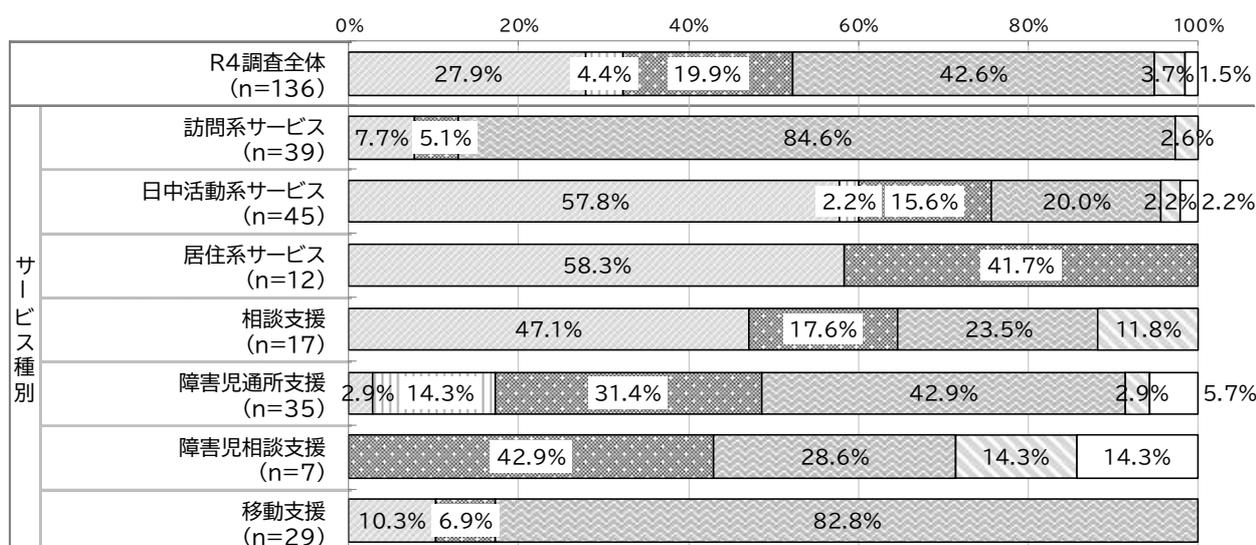
II サービス提供事業所

1 事業所について

問1 事業所の経営主体

事業所の経営主体について、令和4年調査全体では「株式会社、有限会社」が42.6%と最も高く、次いで「社会福祉法人」が27.9%、「特定非営利活動法人(NPO法人)」が19.9%となっています。

サービス種別ごとにみると、「株式会社、有限会社」が最も高いのは、訪問系サービスで84.6%、移動支援で82.8%、障害児通所支援で42.9%となっています。「社会福祉法人」が最も高いのは、居住系サービスで58.3%、日中活動系サービスで57.8%、相談支援で47.1%となっています。「特定非営利活動法人(NPO法人)」が最も高いのは、障害児相談支援で42.9%となっています。

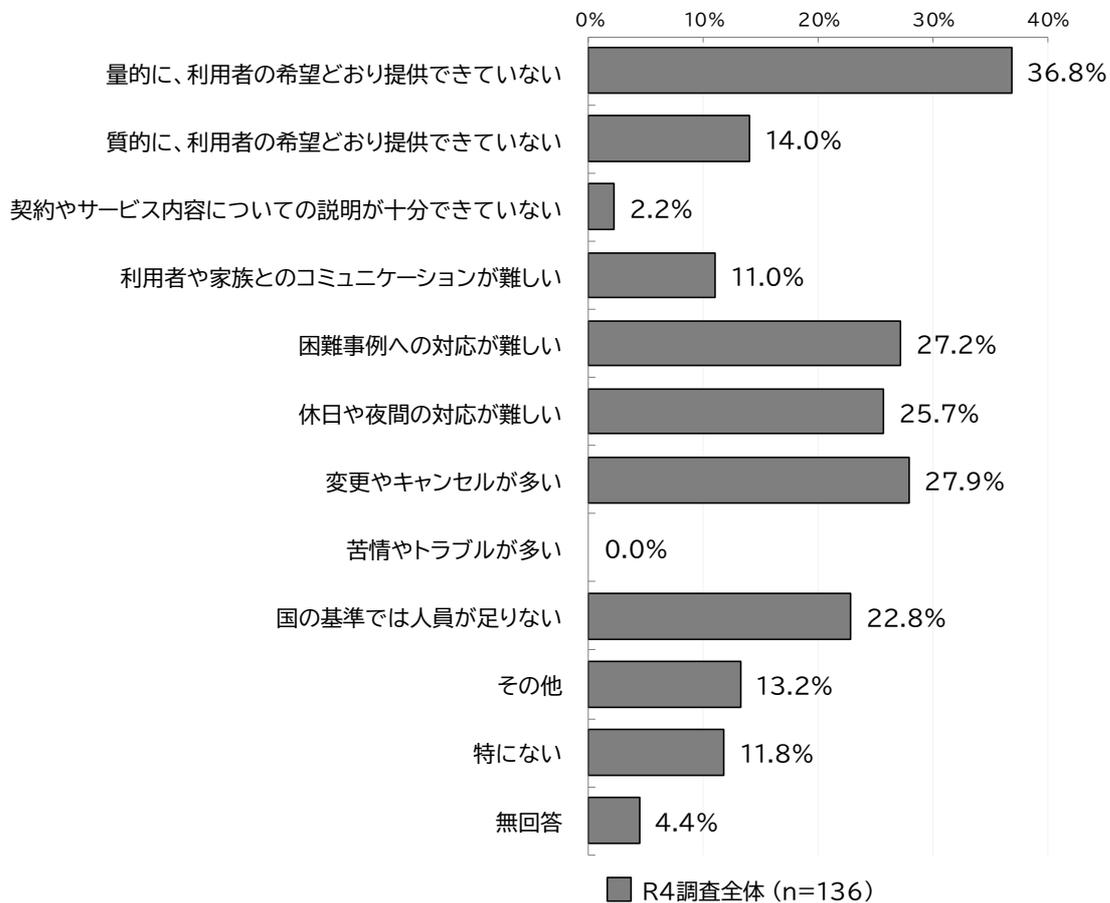


- 社会福祉法人
- 医療法人
- 一般社団法人・一般財団法人
- 特定非営利活動法人(NPO法人)
- 株式会社、有限会社
- 合名会社、合資会社、合同会社
- その他の法人
- 個人経営(法人格なし)
- 無回答

2 サービスの提供について

問8 サービスを提供する上での課題

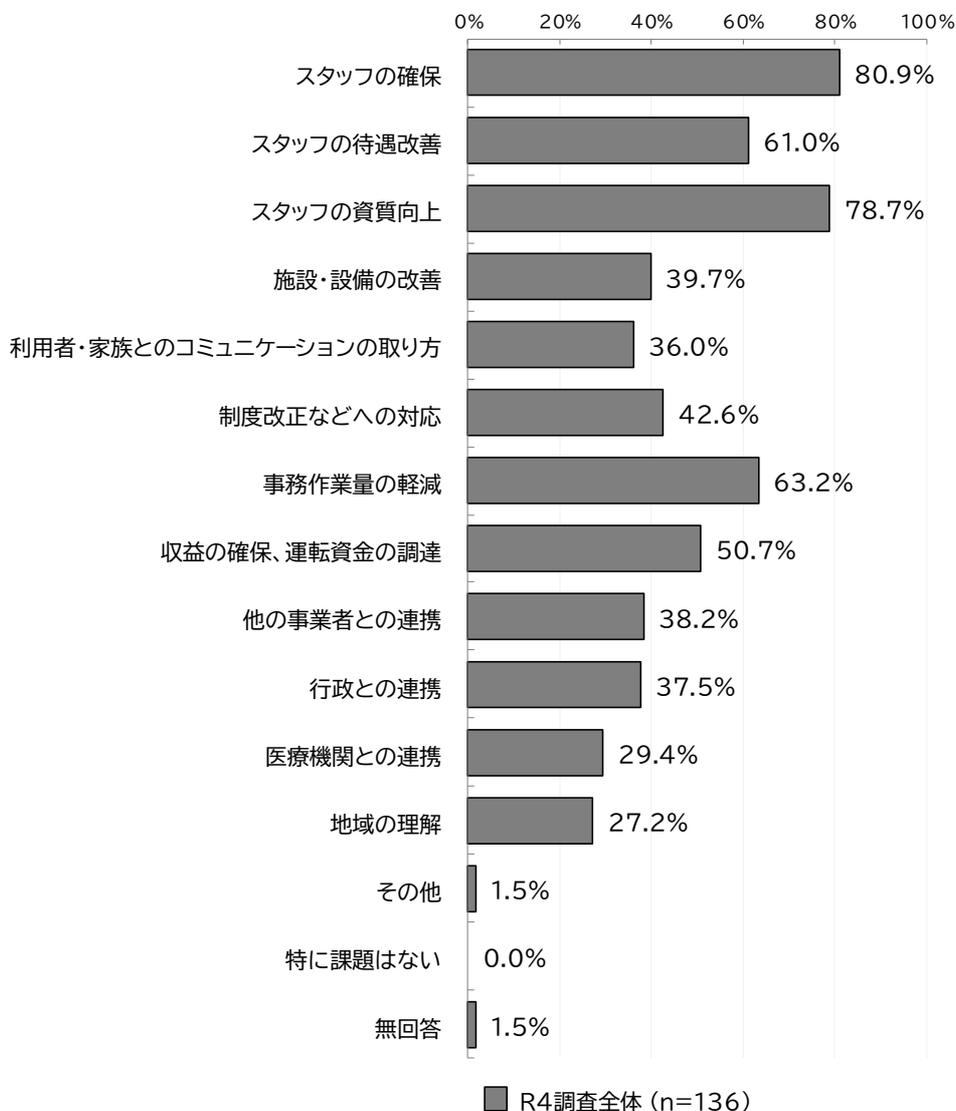
事業所で、サービスを提供する上で課題となっていることについて、令和4年調査全体では「量的に、利用者の希望どおり提供できていない」が36.8%と最も高く、次いで「変更やキャンセルが多い」が27.9%、「困難事例への対応が難しい」が27.2%となっています。



3 事業所運営について

問16 事業所を経営していく上での課題

事業所を経営していく上での課題について、令和4年調査全体では「スタッフの確保」が80.9%と最も高く、次いで「スタッフの資質向上」が78.7%、「事務作業量の軽減」が63.2%となっています。

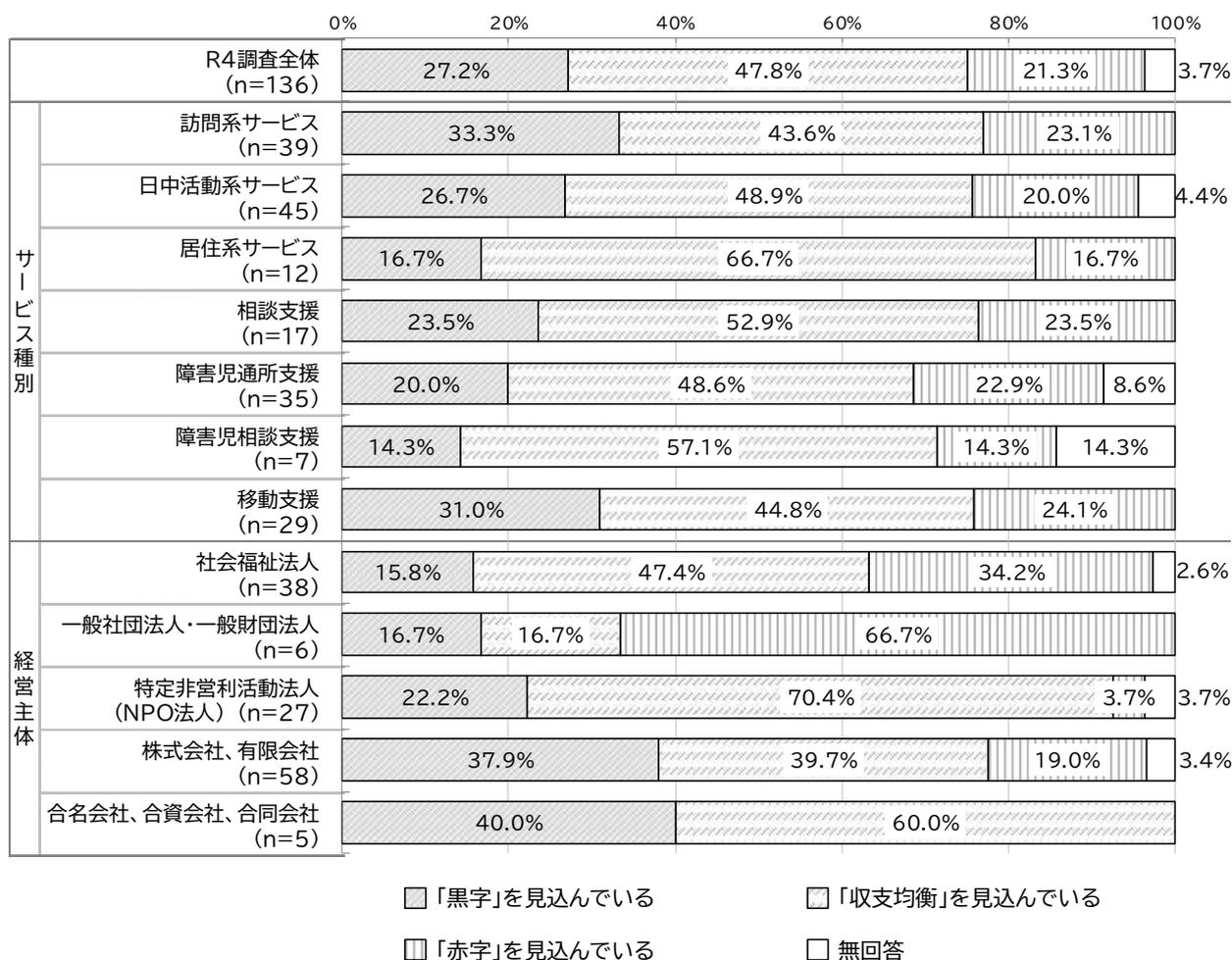


問18 今年度の収支状況

事業所の今年度の収支状況(見込み)について、令和4年調査全体では「収支均衡」を見込んでいるが47.8%、「黒字」を見込んでいるが27.2%、「赤字」を見込んでいるが21.3%となっています。

サービス種別ごとにみると、居住系サービスで「収支均衡」を見込んでいるが66.7%と他のサービス種別と比較して高くなっています。

経営主体ごとにみると、特定非営利活動法人(NPO法人)で「収支均衡」を見込んでいるが70.4%と他の経営主体と比較して高くなっています。また、一般社団法人・一般財団法人で「赤字」を見込んでいるが66.7%と他の経営主体と比較して高くなっています。

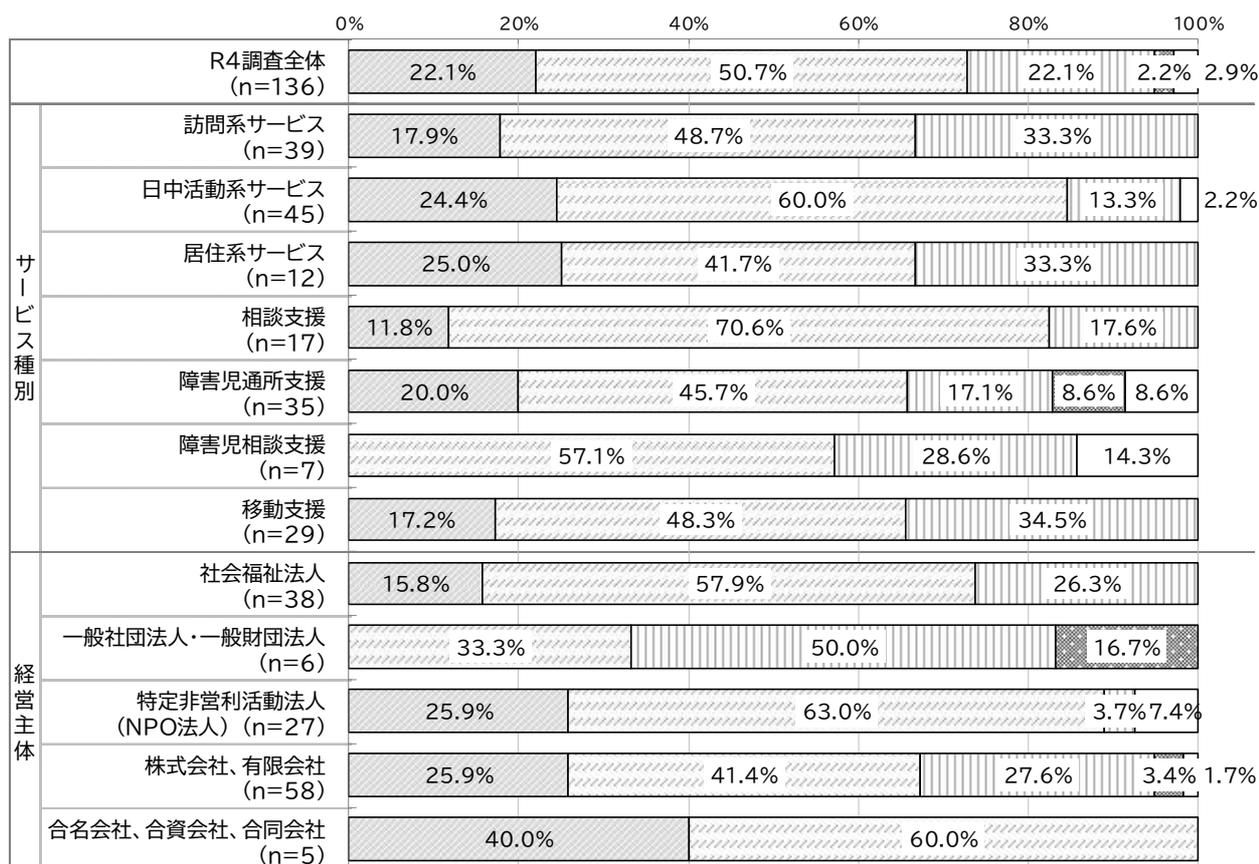


問19 今年度と昨年度との収支状況の比較

事業所の今年度と昨年同時期の収支状況の比較について、令和4年調査全体では「前年度と比較して横ばい」が50.7%と最も高く、次いで「前年度よりは黒字」「前年度よりは赤字」が同率で22.1%となっています。

サービス種別ごとにみると、相談支援で「前年度と比較して横ばい」が70.6%と他のサービス種別と比較して高くなっています。

経営主体ごとにみると、一般社団法人・一般財団法人で「前年度よりは赤字」が50.0%と他の経営主体と比較して高くなっています。

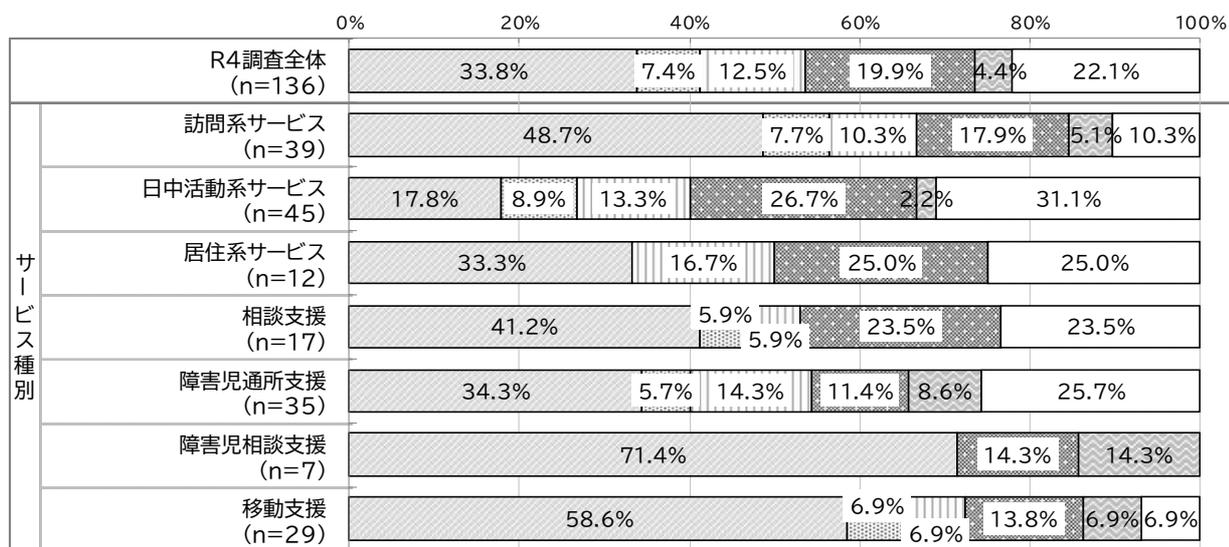


- 前年度よりは黒字
- 前年度と比較して横ばい
- 前年度よりは赤字
- わからない(前年度は事業を実施していない)
- 無回答

問22 新規参入や事業拡大する上で課題となること

事業所が、新規参入又は事業拡大する上で課題になることについて「無回答」以外で、令和4年調査全体では「障害・難病に対応できるスタッフの育成、確保」が33.8%と最も高く、次いで「収益性の確保」が19.9%、「参入のための資金調達、新たな施設や事業所などの確保」が12.5%となっています。

サービス種別ごとにみると、障害児相談支援で「障害・難病に対応できるスタッフの育成、確保」が71.4%と他のサービス種別と比較して高くなっています。



- 障害・難病に対応できるスタッフの育成、確保
- 新規サービスのノウハウ獲得
- 参入のための資金調達、新たな施設や事業所などの確保
- 収益性の確保
- その他
- 無回答

問28 虐待防止のために取り組んでいること

事業所ではどのような虐待防止対策の取組をしているかについて、令和4年調査全体では「虐待防止責任者の設置」が87.5%と最も高く、次いで「虐待防止に係る研修への参加」が83.1%、「虐待防止マニュアルの作成」が81.6%となっています。

